



# 「わたやのほん」連歌と俳諧」展 「善本聚華」展をめぐって

## —天理図書館の近況—

宮嶋 一郎

(一)  
天理図書館は、十月十八日をもって開館五十六周年の記念日を迎える。図書館の歴史そのものは、天理大学の前身天理外国語学校設立の大正十四年三月にまで遡りうるが、昭和五年同月同日の独立館として開館した時を起点と数える慣例に従ってである。

今年の記念日を中心とした十一月は、例年になく充実したシーズンとして記憶されよう。それは、今年が天理教祖百年祭が一月に盛大に挙行され、今年一年が記念の年とされていることにもよる。館の記念日には、この百年祭記念の意味も込めて、二つの大きな出版物と、これまた二つの大きな展覧物が館内で計画されているからである。

出版物は、図書館を代表するコレクション『天理連歌俳諧書目録』第二と、『天理近世文書目録』第二である。綿屋文庫目録第二は、昭和二十九年の第一に次ぎ、約七千点九千冊を収録したB5判で約六五〇頁。目録第一の一万点二万冊には及ばないが、内容的に

種の日録は、同時に複製した綿屋文庫目録第一と共に、開館記念日以後図書館で、いずれも実費頒売される予定である。

は、江戸時代で切った第一には収録されなかった、明治・大正期の近代俳諧資料二五〇点加わり、対象が室町期から近代までと広がったこと。実隆筆「新撰菟玖集」・曾良自筆「奥の細道随行日記」の重要文化財(以下重文と表記)指定品をはじめ、芭蕉は鯉屋物三五点、西鶴は「独吟白韻白註絵巻」他二三点、子規の三九点等いずれも自筆資料で、この種白筆本の多いこと。また、うぶな「逸漁文庫俳諧資料集」四五八点等の双書類も、少なくない。更には、新出資料「花見乗物」「西鶴大矢数巻」等も収録し、一方ではコピー、写真等による資料の蒐集も続けたこと等、各今回の目録の特色と見做されよう。かくて目録一・二を合して綿屋文庫が一万七千点、二万九千冊という数量をもって、現時点における全貌を現わしたことになる。

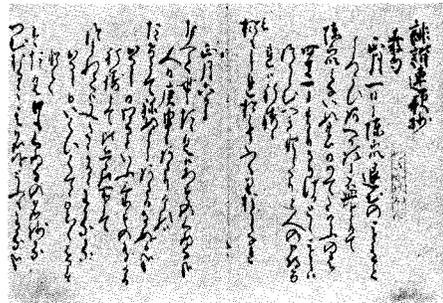
近世文書目録は、A四判約五五〇頁で、大和国高市郡に関する資料一万六百点を収録する。昭和四十七年の同国山辺郡の日録に次ぎ、収録数は約倍を数える。これ等二

次は展覧会についてである。先ず綿屋文庫目録第二の出版を記念し、開館記念を祝して、七〇余点を出品しての「わたやのほん」連歌と俳諧」展を行なう。会期は十月十九日(日)より十一月八日(日)まで。期間中の十一月一日(日)午後二時より、大谷女子大学教授石川真弘氏の「綿屋文庫について」の講演会がある。乞こ来聴。

いる。一過性ではなく、価値ある古書を求めつづけてきた古書店側にとっても、悩みは同じかも知れない。

筆者紹介  
立命館大学教授(日本近代史)  
立命館大学図書館長

(俳諧連歌抄)



○「わたやのほん」

「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展

「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展  
「わたやのほん」展

主な著書  
自由民権運動の展開(有斐閣)  
土族反乱の研究(青木書店)  
自由民権(中公新書)  
天皇制形成期の民衆闘争  
(青木書店)

二年八月に名称・蔵書印もそのままに本館にご寄贈頂いたのである。今年はその時から数えて五十年目の佳節に当る。その間に図書館では一層俳諧書に限って蒐集を続け、約一万七千点、二万九千冊の現在に到ったのである。

今回はその中から、連歌関係八点、俳諧関係四九点、近代俳句関係四点、そして雑俳関係四点を系統的に並べ、芭蕉・西鶴の自筆物等九点を参考資料として添えてみた。全七〇余点である。これは昭和四十六年、東京の天理ギャラリーで展示した「連歌と俳諧」展に準じたものである。

連歌関係は、良基の連歌論書である「頓蒙抄」の貞治五年(一二六六)「擊阿筆」心敬「さ、めこと」の室町中期写、重美指定本の能阿筆「集百句之連歌」は善美の極の資料。「新撰菟玖波集」は、館蔵する邦高親王筆本・実隆筆本共に重文であるが、今回は最良のテキストといわれる実隆書写本を出した。更に室町期の連歌懐紙として原形を美事に留めた「永正連歌懐紙」。近取の古活字版「連歌至

宝抄」等々を出品した。

俳諧関係では、明応八年(一四九九)の序をもつ俳諧撰集の「竹馬狂吟集」宗鑑自筆の「誹諧連歌抄」(前頁写真)は、大永五年(一五二五)版版で最も信頼できるテキストである。守武が天文五年(一五三六)に立願した「守武千句」の白筆草案本では、その塗沫訂正や紙片の切り貼りに、苦心推敲の跡が認められる。寛永十年(一六三三)刊の近世出版俳書の最初の撰集「犬子集」の意義は大きい。「日能・長頭九岡吟百韻」は、寛永二十一年(一六四四)貞徳の自筆。宗因流俳諧結社を談林と汎称することになったのは、延宝三年(一六七五)松意自跋の「俳諧談林十百韻」からである。その宗因自筆の「蚊柱百韻」も加えた。俳諧史上有名な矢数俳諧は、新収の「西鶴大矢数巻一」延宝九年(一六八二)刊を含めて、「紀子大矢数」延宝六年(一六七八)刊、「仙台大矢数」延宝七年(一六七九)刊、初めて三部が出陣できた。句数に名譽をかけた作者達の苦吟の跡が偲ばれるようである。

芭蕉俳諧の真髓と、その展開の相を示す代表的撰集として、七部集一冊も揃えた。奥の細道関係は豪華三点セットである。草稿の姿を示す「奥の細道留本」。そしてその旅に同行した曾良の旅日記である「奥の細道随行日記」は、いわゆる虚構問題を引きおこした基本資料。そしてもう一つは、弟子

許六画になる「奥の細道行脚の図」、芭蕉生前の作で、同行曾良共々最も真を伝える肖像画といわれる。(左写真)



許六画になる「奥の細道行脚の図」、芭蕉生前の作で、同行曾良共々最も真を伝える肖像画といわれる。(左写真)

芭蕉の自筆関係のものでは、いずれも鯉屋伝来書からの出品で、自画賛「あかあかと発句画賛」、句は元禄二年の作で、画賛は五・六年(一六九三)頃か。他に許六画に芭蕉が賛をした「ほろほると山吹発句画賛」、元禄五乃至六年初夏の作。そして一蝶画に芭蕉が賛をした貞享四年(一六八七)の「蓑虫画賛」と、同年芭蕉自筆の「蓑虫説版」を参考に出した。

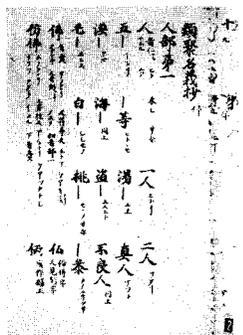
中興期は、独自の境地を拓いた蕪村が安永六年(一七七七)に刊行した「夜半楽」自筆版下の清輝の書。中に有名な「春風馬堤曲」一八首が載る。その弟子凡菟の活躍もめざましかったが、今回は「凡菟初懐紙」を展示した。安永二年(一七七三)以降寛政元年(一七八九)まで、毎年初懐紙を出版するのを例として、全一六冊を刊行し、現存一〇冊だという。うち本文庫には、安永五年、天明二・七年、寛政元年の八冊を蔵し、展示

した。近代は俳句革新者子規の自筆資料集中より「子規庵句稿」一八冊、明治二十九年(一八九六)から三十五年にかけての句会・運座の生原稿である。子規の弟子碧梧桐の明治二十八年他の「碧梧桐句稿」。旧派の代表として門人千人と称された永機「永機日記附合帖」を出品、明治三十年代の日記と附合帖である。最も新しい所では、大正四年三月発行「ホトトギス」の虚子選雑詠欄へ、蛇笏等十三人が投じた原稿集である。松山版「ほととぎす」も附した。雑俳は、前句附集の最古の集である元禄五年(一六九二)刊の「咲やこの花」。地方点者の一枚刷としては、最古の例といえる元禄十四年(一七〇二)刊の「古鉄棚」。庶民の人気を集めた「風柳多留」は、明和二年(一七六五)に初編を出してから、天保十年(一八三九)頃まで、一六七編を続刊したという。本文庫には、後刷を含めてであるが一五二編を蔵する。そのエネルギーを御覧頂きたい。更に、初代川柳評「万句合刷物」のうち、極初期の宝暦十一年一十二年分二五枚綴も出陣した。

この展示は、従来の先ず東京ギャラリーに展示し、後に本館で展示するというパターンを変えて、先に本館で展示して、来春ギャラリーに持って行くことにした最初の展示である。

高、会場の都合で天理のみに展示する資料として、「俳跡貼交屏風」がある。六曲一雙で、第一隻に九〇枚、第二隻に八六枚、計一七六枚の句稿・画賛・書翰等が貼交せられた大型屏風である。中には蕪村・晚台・定雅等天明期・天保期の著名文人が多く、今回初公開される資料である。○「善本聚華」善本叢書相書之部完結記念特別展

善本叢書所収の和書は二七〇余点、及び古文書は一九五種に及ぶが、その中より各分野にわたって六二点を撰んだ。以下に書名をあげて簡単に紹介しよう。先ず古辞書の部では、わが国最初分類体漢和辞書「和名類聚抄」(平安末期写・重文)、平安末期成立の「類聚名義抄」(鎌倉末期写・国宝)(左写真等、計四点。



和名類聚抄

史籍は、神道宗家たる吉田家旧蔵本から、全巻を兼ねの子兼水の一筆にかかる「先代旧事本紀」(重文)、宣賢(兼俱の子)の子兼右の「これまた全巻一筆にかかる「日本書紀兼右本」(重文)。他、古義堂文

庫より伊藤仁斎自筆の日記、松平文庫より定信自筆の「花月日記」等、計一点。和歌・連歌・俳諧の部では、文永十二年(一二七五)写の「貫之集」。表題本文ともに定家筆にかかると「実方集」。また、全巻実隆の筆になる「新撰寛政波集」(重文)。芭蕉自筆の「野ざらし紀行」等、一二点。

物語・小説では、天正二十年(一五九二)上原元純の手になる「竹取物語」(重文)、以下「大和」「伊勢」(伝為家筆・重美)。「源氏物語」は、鎌倉時代書写の別本の系統より二点に、一条兼良筆と伝える「河海抄」(文明十三年(一四八一)写を添える。また、鎌倉期の散佚物語から「あさぢが露」(在明の別)の二点。その他室町から江戸極初期の奈良絵本二点。上田秋成自筆の「春雨物語」。馬琴自筆書簡等、計一八点。

諸芸能の部では、平安期写の雅楽の箏譜「古箏譜」(重文)。以下各分野より、例えば若若舞曲の「大頭流正本」(舞の本)、蹴鞠道の鎌倉期の伝書「内外三時抄」。また、相撲の組手・取り口を図解した絵巻物として現存最古の「相撲行司絵巻」(次頁写真)等、それぞれに特色のあるもの八点。他、後奈良天皇の宸筆にかかる、美しい小本仕立ての「なぞたて」(重美)等、咄の分野から三点。また、宇田川榕庵等幕末洋字の先



(相撲行司絵巻)

覚者達の自筆稿本より三点。

そして、きりしたん版関係から最近収蔵の「落葉集」(重文)、及び「ぎやどべかどる」(重文)の二点を出品した。

結果的には六二点の内、国宝・重文・重美計二点となったが、今回の場合はその他の出品のどれ一つをとってみても、各分野の頂点に立つもの、或いは特異な位置を占めるものといえよう。

いずれにしても、国宝・重文等の指定書をこれだけ含む展覧会は、館としても稀有のことであり、善本叢書十五年の事業の上に、お心寄せ頂いた江湖の皆様方に対する館としての満腔の感謝の表現であり、百年祭記念の意味もまたこめられている。

御清覧をお願いする次第である。  
(天理図書館司書)

## 江戸時代初期の儒教の由来

W・J ボート

日本儒教史の中の大きい問題の一つは、どうして江戸時代初期に儒教が急にはやりだして天下——少なくとも思想界——を風靡する様になったか、と云うのである。従来の学説では徳川幕府の設立、又は幕藩体制の成立と云う、同時代に起こった現象と何らかの因果関係を想定して問題を解決する試みが主流である。しかし、こんな試みの背景にある「post hoc, ergo propter hoc」の様な推論は論理的には弱い。「post hoc, sed non proper hoc」と云う逆のケースも大いにありえるので、とにかくその可能性を否定する事が必要である。しかし、因果的關係の如何を考察することが可能になる前に、まず甲の現象が果たして乙の現象より早く出現したかどうかを証明しなければならぬ段階がある。これが論理学であるが、今

の問題は純論理学上の問題ではなく、歴史学の問題である以上、「儒教」(江戸時代初期)「急に」はやる「風靡」などの、気軽に使う単語が一体どういう意味に使われているかを見て、これらを分析し、具体化する必要もある。そして、

それを通じて、問い掛けそのものが妥当であるかどうかを、うらづけなければならぬ。

冒頭に書いたことは、こんな風にして分析してみると、次の質問がおのずと生じる。以後のエッセーでは、このそれぞれの質問に答えて行きたいと思う。

(1)儒教が「はやり」、「隆盛」したというのは、具体的に何を指しているか。

(2)この場合の「儒教」が具体的にどんな内容のものであったか。

(3)この「儒教」がいつごろから「隆盛」し始めたか。

(4)儒教以外にも、ほぼ同じ頃から「はやり」だしたものがあるか。

(5)この「儒教」の担い手であった儒者はどんな人々であったか。

(6)この「儒教」を主張する儒者は、なぜとくにこの時機から活躍しだしたか。

江戸時代Ⅱ儒教隆盛時代と云う考え方は、江戸時代の思想界を見ると儒教が一番活発で一番創造的な思想であって、思想界の中で支配的な地位を占めており、しかも一番時代の要求にかなつた思想体系であったと云う、それぞれの主張に分析することができるといえる。こう書いた途端に、こんな考え方の弱点が目立って来る。活発性とか創造性を数量的にどうはかればよいかと云う、測定法の問題を別にしても、周知の様に国学者や仏教・神道に属するいろいろな思想家と宗教家が活躍していたこともみのがせない。

強いて言えるのは、(1)江戸時代に於ては中世とは比べものにならない程に自分のことを儒者と称する人が多かつたこと、(2)十八世紀後半からそれぞれの藩と幕府が教育を重視する様になる過程のなかでこの儒者に相応しい社会的地位(藩校の教員)ができてきたこと、(3)明治時代に入つてからも、社会

的要素が数多く残つたことである。明治時代になつても儒教の影響がいかわらず続いたからこそ、近代・現代の学者は江戸時代の思想史を研究するにあつて、殊に儒教を対象としたのは、むしろ当然なことと言える。現代の状況がどのような経緯でもたらされたかを探るのなら、このアプローチにも一理があるけれど、当時の状況を正しく再現する方法としてはどうも妥当性を欠いているとしか言えない。

江戸時代初期に限って見れば、一番重要なのは儒者と自称する人が多く出て来たことと云うことである。だからと言って、一切の思想家が

儒者であつて、儒者以外に思想家はいなかつたとは、言うまでもなくあやまりである。儒教にこだわらずに、もう少し詳しくその直前の安土桃山時代を見て、何が起つたかを跡付けてみれば、このことが容易に判る。

安土桃山時代には、昔公家に独占された文芸や学問が明るみに出て一般化し、こういうものはもう公家の趣味と嗜みでなくなり、庶民でも、才能さえあれば、それで生計を立てる事が可能になつた時代である。短歌や連歌の分野に於ての里村紹巴と松永貞徳の思い起せば容易にわかる事である。同じ様に、清原家の儒学や吉田家の神道も、当然のことながら公に出ている。因みに言うが、こんな現象は必ずしも学問や文芸に限られていなかつた。宗教や芸能の分野でも似た様なことが起こつていた。無名な職人の代わりに個性に満ちた芸術家が現れ始めていた。お坊さんは民間が武家かの間をせつせと新しいパトロンをつくつて、自分の宗派の繁栄をはかろうとした。

この背後に働いたのは実は至極ありふれた供給と需要の問題であつた。市場関係が変わつて来たのであつた。いつから変わつて来たかと言うと、安土桃山時代より一世紀前、応仁の頃からであろう。応仁の乱を機にして、朝廷と將軍と大寺院からなる都の閉鎖的

社会が経済的地盤をなくして崩れ、公家や将軍家や寺院や諸職人の従来のパトロン関係が破壊されてしまった。財源がなくなつたものは自分の知識や腕を売り物にせざるを得ない羽目になつた。供給同様需要も、同じ応仁の乱の結果として増え、市がだんだんと全国に広がって行つた。大名の富と教養が殖えることについて、この新しいパトロンの趣味が洗練され、これらが雇つている知識人や芸術家に対する要求が質をともに増して来た。安土桃山時代になつて全国の大名が関西の城下町（安土、大阪、伏見）に集中する様になつてからは、これらの事が一層目立つが、地方の大名が芸術や芸能や芸や宗教の主なパトロンになつた事じたいが応仁の乱以来の傾向であつた。

だから、江戸幕府の発祥を契機にして儒教が充足したと云う考え方が間違つてゐることが分かる。儒教は従来の公家の学問の一つで、十六世紀の文化上の動きの一環として明るみに出て、世に行われる様になつたのである。

しかし、他の文芸や芸術などに比べて、市場の状況が儒教にとってはとくに厳しかった。全然需要がない訳ではなかつたにしても、肝心な殿さまのあいだにはこう云うむつかしい学問に対して興味をいだいてゐる人はほとんどいなくつた。中世では武家向きに君とし

ての処世術を説く、「竹馬抄」の様な書物や武家家訓などに窺われる様に、折衷的で簡易な「天道思想」が関の山であつた。宗・明学の説く様な体系的な思想体制が武家にとつて非常に理解しにくかつた事は容易に想像することが出来るが、分りにくいだけではなく、用もなかつた。儒教の論ずる政治体制のありかたとか儒教の強調する教育の重要性が中世後期の日本の現実から程遠いもので、これらの主張が実現できる段階にはまだ至つてゐなかつた。一例をあげると、林羅山が記した徳川家康との会話である『対幕府問』には、羅山が明国の完備された教育制度を指して、明国こそ道が行われたい事を指摘する一段がある。

「家康」謂道春（羅山）曰。方今大明亦有道耶。卿以為如何。曰。有之。

（中略）今也大明自開闢自群県県至州府無処々不有学校。皆所以教人倫而以正人心善風俗為要。然則果有道乎。於是幕下變乎色而言他。春亦不答。」

分りにくくて、しかも時代離れしていた上に、儒教のもう一つの弱点はやはりその經典の読みずらさである。四書五經を始め、一切の文獻が漢文で書いてある。そして、お経もしよせん漢文で書いてはあるが——仏教のばあいと違つて、これらの文獻の細かい購読と研究が専門家だけにではなく、一般の素人にも要求されていた。当時の口から見れば儒教がどうも、実用性は薄く、漢文のかなりの素養を必要とする、難儀な学問であつた。売れ口もあまりなかつた事は、当然としか言ひようはない。

しかるべき教養が出来ていて興味を持ち得るのは限られた数の知識人でしかありえなかつたので、公家とお坊さんと医者にはばばきる。中世後期に儒教の研究と教育の中心となつてゐる都の清原家と坂東の足利学校はほとんどこんな人ばかりを対象として教育を施した。林羅山の弟子と友人の多くは、医者や職業としながら儒学を研究していたのは「易経」に基いての占と戦場においての応急手当てであつた。換言すれば、儒教が一部の知識人の教養であり、当時の状況から見ては、それでしかありえなかつたのである。

林羅山自身が良い例である。町の子に生まれ、若い頃に建仁寺に入れられて漢文を習う。蘇東坡や杜甫や李太白の詩を読みながら、この詩人はおおかた『文選』と『史記』と『漢書』に拠つてゐる事に気が付く。今度はこの本を読んで見たら、これらのものになつてゐるのは五經であることが分かつた。最後に、この五經を正しく読む事は宗儒の注釈を擱いては不可能であると悟り、儒教に帰依した。本人が教ヶ所にわたつて談るこの文学青年の遍歴はそれなりの必然性を有するが、その反面に、当時こんなことではまだ商売にならなかつた事も不思議ではない。

新しい品物を売りたい場合にまづ必要なのは市場開拓である。十六・十七世紀における儒学も例外ではない。これを悟つたのは羅山だけではなかつた。秘伝々々と称しながらも清原家の面々がすでに十六世紀の初頭から、興味がある人を相手にして四書五經の授業を行い、天文二年に堺で上梓した『論語』を嚆矢にして一連の儒書の刊行にも関与した。同様に羅山も、二十歳前後にして『論語集註』の授業を開始し、その後の一生を素人向きの儒教の解釈と宣伝にかたむけた。かれの『春鑑抄』、『三徳抄』、『大学道春抄』等々の書物がやはりこう云う意図のもので書かれたのであろう。皆、啓蒙的なものばかりである。藤原惺窩に關しても同じことが言える。かれが書いた『寸鉄録』と『逐鹿評』にも同様な啓蒙的意図が窺われる。

この事情を念頭に入れると始めて、幾つかのことがはつきりして来る。例えば、江戸時代初期の儒教に独創性はなかつたとよく言われているが、啓蒙こそが焦眉の急務であつたため、まず一通りのことをくりかえしくりかえし説明する事が必要であつた。例えば、羅山が程朱学と自称したが、これは程朱以降四百年の中国の儒教の動きを知らなかつたからではなく、宗儒の書いた注釈書が絶対に必要であつたからである。例えば、儒者同志の論争もなかなか激しかったが、それは当時の儒者の置かれていた苦しい社会的立場を鑑みても分かる様に、「邪説をつぶせ」と云う正当感だけが込められてあつたのではなく、やはり自己宣伝をする必要も働いてゐたと言えよう。こういう訳であつたからこそ、江戸時代中期と後記に比べて初期の方が、かりに独創がなくて学問の水準がそんなに高くなくとも、実に色あざやかな気がする。程朱を唱へる羅山の外に、晩年になつて明末の風変わりな学者林兆恩の説を弁する惺窩もあれば、朝鮮李朝の学者李退溪を崇拜する山崎闇斎もあつた。また、中江藤樹が林家と違つてさほど漢学の臭みの濃くない儒学を志して、所詮王陽明を看板に掲げることになつた。

おおざっぱに言うと、江戸時代初期の儒教の由来に關して三つの説がある。これは、すなわち、五山由来説と公家由来説と朝鮮伝来説である。上に記したところから判明する様に、私には公家由来説が一番有力に思われる。幾つかの理由があるが、その一つはこの説に拠つてしか、儒教と神道の關係が解釈できないことである。この

両者の間に密接な関係があることは、江戸時代初期の特徴である。

特に「理当心地神道」を唱えた林羅山や「垂加神道」を鼓吹した、山崎闇斎のばあいにはこの「儒道一致」とか「儒道兼学」の主張が著しいものであるが、この頃の儒者のほとんどが儒教の外に神道にも関心をもっていた事は事実である。神道への関心が一番薄かった惺窩の場合でさえ、日本がもとより結構な国であって、中国にひけを取らなかつたと言う考えはあるし、儒教は仏教と違つてある意味では固有名詞であると言う主張が惺窩をはじめ至る所で発見できる。

一、二例をあげると藤原惺窩が羅山にあてた手紙に

「本邦居東海之表。太陽之地。朝敬晨霞之所輝煥。洪涛層瀾之所蕩瀟。其清明純粹之氣。鍾以為人才。故昔氣運盛之日。文物偉器。与中華抗衡。」

と書いたし、惺窩の弟子で羅山の友人であった堀舎庵が「惺窩文集」の序に次のことを書く

「吾邦神皇之靈域。而和粹之所鍾也。神武之建極也。種子命（タネノミコト）教之郊祭。而孝悌之道興。孝盡之至和也。」

他に、例え、林羅山と慈眼大師天海の討論の記録といわれる「殿中間答」——もちろん偽作ではあるが十七世紀のものには相違ないと思われる——の中には、神国思

想が非常に重要視され、天海のほうがこれを強調しながら羅山の神武天皇・周王室の太伯という説をきびしく批判する。ほんの一二例に過ぎないが、こんな神国思想に表れるナショナリズム——独自感と優越感の間のもの——が初期の儒者の間に広く行われていた事が、これで一応明らかである。

この特徴の由来がどこにあるかという点、やはり江戸時代以前の儒学の研究に遡らなければならぬ。つまり、中世の儒学の中にもこんな「儒道兼学」か「儒道一致」の様な思想があつたか、そしてその中に「神国思想」に似た要素が含まれてあつたかを、見なければならぬ。「日本は神国である」と云うのは、豊臣秀吉の伴天連追放令以来の常套文句であるが、勿論天正のころに急に起こつたものではない。この考えもその歴史があつて、以前から存在していた筈である。

例えば、上の引用文と次の文章を較べられたい。

「人皇三十余代マデハ我國ノ群生、皆悉ク秘ヲ以テ、三世ヲ立シテ、遂ニ外國ノ力ヲ借ザル者ナリ、世漸ク淺キニ降リ人ノ心安ニシテ、正ヲ疑ヒ邪ヲ信ジ、元ヲ忘テ、末ヲ乱ス、因茲廢戸皇子、始テ儒教道ノ方便ヲ演賜フ、是ハ全く異國ノ伝法ナリ、神國ノ根元ノ秘ヲ以テ、心地ヲ清ムレバ、天

モ清浄、三才俱ニ清浄ナレバ（後略）天理図書館所蔵吉田文庫七一一一七九、大織冠御啓白文」

すでに言つた様に、公家のなかには大学寮以来の伝統を誇る明経家の清原家（後に船橋に改む）が儒教の従来専門家であつた。おなじく、神道の専門家としては、藤原鎌足から系統をひくつた部家後に吉田に改む）があつたが、両家が密接な関係にあつたことは、十五世紀の終わりから二度にわたつて行われた互いの養子入りなどでも分かる。十六世紀初期に清原家を中興したといつても過言ではない。宣賢が吉田兼俱の息子であつて、吉田家に養子に入つた。血統が混ざると学問も混ざってしまうという社会であつたので、『論語聴塵』等々、すぐれた儒典の抄物を書いた宣賢が、他に『神書聞塵』も書いた。儒教と神道が混合したとは言えなくても、結果として儒道兼学の習慣がこのようにして、十六世紀の前半から育てられて来た。おかげで自然と、神道を通じて儒教を理解する試みも、その反対の試みも相通じようになるのである。例えば、次の「加持経」のなかに「神」を「理」と書き替へれば、「草木に各々その理がある」など、儒教の考えによく似たところがある。

「神在天道、神在地道、神在人道、天無神道、無有三光、亦無四時、地無神道、無有五形、亦無万物、人無神道、無有一命、亦無方法、天地之心、是即神也、諸仏之心、是即神也、鬼畜之心、是即神也、草木之心、是即神也、山河大地、是即神也、何況天星、人万物長、頭有七空、是天七星、腹有五臟、是地五行、心者神也、心神無形、而養有形、是真神也。神道者以天地為書籍、以日月為証明。金胎大日本此神明天地開闢始此國可仰可信能（ヨク）思へ、深ク思へ、慎（ツツシ）ミ而莫（ナカレ）意（オコタル）矣」天理図書館吉田文庫所蔵六五二二六四、三三三三、神道三妙加持経」

この学風が羅山等に継がれた。そして、十七世紀の間に段々と影響を薄めて行く中で、儒教と神道がまた分れて行く。しかし、江戸時代初期の儒教を正しく理解しようとするならば、これは見逃してはならない側面である。

### 幕末洋学展

#### ——日本近代学術の源流——

京都大学附属図書館で大規模な洋学展が開催される。かつて新村出教授が収集した東西交渉資料や医学部図書館所蔵の富士川游文庫、尊攘堂の所蔵品などを中心に、医学・自然科学・技術・世界の認識という四つのテーマのもとに展覧

うとすれば、これは見逃してはならない側面である。

この話は文字通りのエッセーである。内容はおおむね、一九八三年にオランダ国立ライデン大学に提出した博士論文「新儒教（ネオ・コンヒュシアニズム）の採用と応用」（原文英語・引用文の採出と典拠・参考文献などは、それを参照されたし）に拠る結論と推論であるが、全体としてはむしろ自分の今後の研究の展望と課題を書かせて貰つたと言う様なものである。文中の推測にはや、極言した処もあつて、全部が当るとは私も考えていない。しかし、或る説を証明することとならんで、説を立てることも学問の楽しみの一つである。

オランダライデン大学教授 昨年十二月より本年八月まで京都大学人文科学研究所に招聘外国人学者として滞在。

される。青木昆陽自筆の「和蘭文学略考」や佐久間象山考案の地震計など洋学発展の軌跡を追う資料が豊富にみられる。また、期間中の十一月二十五日二時より吉田光邦名誉教授が「洋学と日本の近代」と題して講演（一般参観自由） 期日：十一月二十日・二十八日（日祝は休館）九時半〜十七時 京都大学附属図書館展示ホール



「コシヨケン」よさきようなら

五車堂書店 久保田厚生
朝の光は斜めからさすというこ
とを長い間忘れていました。今朝
はどういうわけか早くに目がさめ
てしまっており、窓からぼんやりと外
を見ておられます。刈り入れを待つ
ばかりの稲穂の波が、きらめく朝
の光のなかに広がっています。お
だやかな喜びとでもいった感覚が、
ゆつくりとからだを満たしはじめ
てゆくのが分かります。いくらか
の感傷をまじえつつ……

二十一年つとめた臨川書店をこ
の九月十日をもって退社し、念願
の独立への一歩を踏み出したとこ
ろです。いささか感傷的になって
いたとしてもお許し下さい。

京都古書研究会「コシヨケン」
とは発足の一からの付合いです。
誕生に立合い、共に成長してきま
した。気がついたら十年たつてい
ました。個性にあふれ、知恵と力
の出し惜しみをしない本当にタフ
な連中でした。十分すぎるほど刺
激的な仲間であり十年間でした。

この十年は私にとって他の点で
も大きな意味をもった年月でした。
臨川書店が「阪急古書のまち」に
店を出して十年たちました。ここ
でも学ぶべき多くの先輩・友人に
恵まれました。文書の会にも参加
させてもらって大いに啓発されま
した。まことに怠慢な会員でした
が、勉強した者だけの成しうる仕

事を目のあたりにして奮起させら
れました。

もしかしたらこの十年という歳
月は独立という点からみれば長ず
ぎたかもしれませぬ。しかしこれ
だけ豊かな知己を財産として独立
出来る私は幸せです。「コシヨケ
ン」よありがどうさきようなら

十二月二日神戸三宮「サンバル」
五階に「サンバル古書のまち」が
開店いたします。神戸の七人の仲
間に加えてもらっての仕事です。
京都・大阪・東京・神戸とまた輪
が広がりました。

仲間の輪を包みこむ更に大きな
お客様の輪があります。とてもあ
りがたいことです。よろしくお願
いいたします。

「阪急古書のまち」の臨川書店
は、矢野龍二が引継ぎます。デキ
ル男になったと思います。よろし
くお引立てくださいますようお願い
い申し上げます。
(元臨川書店勤務)

振り返って

臨川書店古書部 矢野龍二

ふと気がつくところ九年という歳月
が過ぎ去っておりました。私が臨
川書店に勤め、古書業界の片隅に
身をおいた九年は、めまぐるしく
あつという間でした。思えば、古
本やということはおろか、社会人
としてもあやうい人間がようやく

一人前の古本やへ旅立とうとして
いる。おそまきながら自分の九年
という年月を今、そのようにかみ
しめております。又、この度、当
古書研究会の生みの親ともいうべ
き、あるいは私にとつて最良の七
司であった久保田さんが、独立開
店されるということで退社され同
時に当会をも脱会される現実を前
にした時、ますます過去の九年を
振り返らざるを得ません。

久保田さんはこの「京古本や往
来」創刊号の会員紹介の欄で当社
大阪店を案内した後、次のように
書いておられます。(曇りの中の
選択ではなしに、質の中の選択
をしてもらえる本屋になりたい)
まさに創刊号にふさわしい決意と
気概のこもった言葉だと思えます。

私も久保田さんの仕事を引き継ぐ
の際に、この言葉をひとつの指
針とし、(再び新風よおこれ)と
ばかりにがんばっていきたくと思
います。

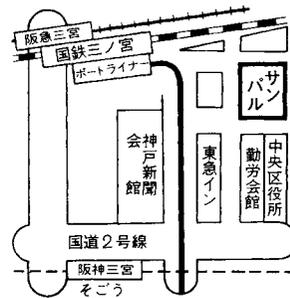
幸い、古書研究会の皆様には未
熟ものの私を仲間に入れていただ
き、心機一転、一年生のつもりで
勉強させていただきました。
何やら文面が個人的な感慨でう
めつくされてしまいましたがお
客様には不勉強ゆえ、色々ご迷
惑、ご不便おかけするかと存じ
ますが、これまでと相変りなくよ
ろしくお願い致します。

又、臨川書店古書部は大阪の梅
田に開店し、十年がたちました。
もうご存じの方もあろうかと思ひ
ますが、十数軒の店舗のきをつ
らね、毎日活気にあふれておりま
す。大阪にお越しの節は是非お立
寄りいただき、何かれとなくお声
おかけ下さい。当店では冷かしの
お客様も大歓迎です。



12月2日 オープン 11:00A.M
神戸三宮
サンバル古書のまち

神戸市中央区雲井通5-3-1
「サンバル」5F



- お書籍店 蝸牛
清泉堂倉地書店
五車堂書店
昭和堂書店
研島一雄書店
山口書店
ロードス書房

事務局 神戸市須磨区行幸町3-8-20 研島一雄書店

編集後記

◎本号は遠くオランダからも原稿
をいただいた。本会の活動も京都
を飛び出し、日本全国、そして世
界へ翔くべく努力。努力。

◎古書研の生みの親であり、それ
を十年間育ててくれた臨川書店
久保田厚生氏が独立、退会。入れ
かわって新鋭矢野龍二氏が入会。

古本まつりは第十回と古書研もエ
ポックを迎えた。本誌創刊号の寿
岳文章先生の言を思い起し、再び
「新風よおこれ」と一鞭。

次号予定

「京古本や往来」第三十五号は
六十二年十一月十五日発行です。

福田屋書店

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55  
電話(〇七五)七八一三二一六  
振替 京都 八四二五二六

- 1 山之犠牲 附山岳登攀心得 小山 博 大5 三、五〇〇
2 黒部溪谷 函付並 冠松次郎 昭3 六、〇〇〇
3 泉を聴く 汚函付 西岡一雄 昭9 五、五〇〇
4 偃松帯 少汚れ 織内信彦 昭16 三、〇〇〇
5 山とふるさと 河田 楨 昭16 一、五〇〇
6 山旅の素描 廃業印有 茨木猪之吉 昭17 二、五〇〇
7 積雪期登山 勝田 甫 昭18 二、五〇〇
8 雪と光と夢 伊藤洋平山岳写真集 函付 昭31 四、五〇〇
9 山は静かなり 横田裕介岳写真集 函付 昭35 二、八〇〇
10 日本登山記録大成 全20巻 本棚付 昭58 六、〇〇〇
11 雪原の足あと 坂本直行画文集 函付 昭40 五、五〇〇
12 わたしの草と木の絵本 坂本直行 昭51 四、五〇〇
13 山・原野・牧場・函付 坂本直行 昭51 一、五〇〇
14 森林・草原・氷河・函付 加藤泰安 昭41 四、八〇〇
15 遠い山近い山 望月達夫 昭43 三、五〇〇
16 登高者 限定版 函付 昭40 三、五〇〇
17 漂泊者 限定版 函付 昭41 三、五〇〇
18 日翳の山ひなたの山 上田哲農 昭33 四、八〇〇
19 登山の夜明け 熊原哲男 昭34 二、五〇〇
20 ノシヤック登頂 京都大文字土山岳会 昭36 三、五〇〇
21 チョゴリザ 京都大文字土山岳会 昭34 七、〇〇〇
22 アンナブルナ日記函付 京都大文字土山岳会 昭31 六、五〇〇
23 登山の小史と用具の変遷 西岡一雄 昭33 五、五〇〇
24 垂直の散歩 コクササ双書 函付 藤木九三 昭33 一、八〇〇
25 日本百名山 函付 深田久弥 昭40 二、五〇〇
26 のぼるへ 創刊号 酪農大山岳部 昭45 二、五〇〇
27 星をめざして C B 10 登頂報告書 大谷大学 O B 山岳会 昭55 二、五〇〇
28 アルプス選書(分売) 北八ツ彷徨(山口) 牧場の本尾 各一、五〇〇
(崎) 垂直と水平の道(高木、渡辺) 山の足貫(畦地) 各一、五〇〇
29 山と漂泊 函付 谷川徹三 昭33 一、五〇〇
30 遠い山遙かな旅 三田幸夫 昭31 一、五〇〇

三密堂書店

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル  
電話(〇七五)三五一九六三二  
振替 京都 四一三四七一

- 1 増補 正燈世譜 遠諱局集 大徳禪寺 昭9 五、〇〇〇
2 宗門無遮燈論 全一冊 東嶺和尚編 矢野平兵衛 明15 六、〇〇〇
3 仁王般若経 全一冊 永田文昌堂編 經典本 大11 五、〇〇〇
4 弘法大師伝 宮崎忍海編 山城屋 昭4 二、五〇〇
5 真言宗の教義と実修 大橋寛阿編 高野山出版 昭43 三、五〇〇
6 真言宗安心要義 長合宝秀著 六大大新報社 昭53 一、五〇〇
7 理源大師役の行者講式 渡辺俊男著 醍醐青年会 昭51 三、五〇〇
8 新熊野観音寺千五十年史 出雲路敬和編 観音寺 昭47 三、五〇〇
9 聖観自在菩薩と折日和出来著 霞ヶ関書房 昭43 一、五〇〇
10 聖観日蓮聖人法話 高橋北堂著 近代文艺社 昭4 二、〇〇〇
11 大西良慶和上米寿記念集 田中庄之輔編 同記念 昭38 二、五〇〇
12 渡辺法華経 井上賢海著 大法輪刊 昭8 二、〇〇〇
13 新訳法句経講話 渡辺照宏著 仏教典刊 昭31 二、〇〇〇
14 黒住宗史学 延川大川著 龍宿山房 昭17 二、五〇〇
15 生命の医学 橋本徹馬著 紫雲荘 昭56 四、〇〇〇
16 心霊治療秘書 渡辺藤交著 日本心霊学会 昭2 三、五〇〇
17 呼吸式治療秘書 渡辺藤交著 日本心霊学会 大5 二、五〇〇
18 梅花無盡蔵 全二冊 小松帯刀編 小松版 大11 八、〇〇〇
19 靈符録起集 沢了謹集 水田書堂 宝永5六、〇〇〇
20 周易奥秘鍵 全三冊 山岸弥平著 一書堂 大7 三、〇〇〇
21 真勢二秘伝 阿部広之進編 文栄堂 明40 二、五〇〇
22 復古易精義入神伝 全冊 阿部見龍編 文栄堂 明27 五、〇〇〇
23 龍蔵 高門通申作法 全一冊 張耀文述 香琴社 昭45 三、五〇〇
24 龍蔵 日房精義大成神珍本 全冊 松浦琴齋著 魁齋齋 明15 四、〇〇〇
25 龍蔵 日房精義神珍本 全三冊 松浦琴齋著 日勝齋 明15 四、〇〇〇
26 神相全編正義 全三冊 石竜子著 文栄堂 文化2 五、〇〇〇
27 人相学精義 小森泰實著 松本書店 大14 三、〇〇〇
28 女性九尾納音性質辨 佐々木慶助編 同平民 明24 二、五〇〇
29 女性五音顕真術 陽新堂主人著 発祥館 明43 七、〇〇〇
30 女性八品神機幽玄術 陽新堂主人著 陽新堂 大7 八、〇〇〇
31 家相方位建築宝典 田中武榮著 春江堂 明43 四、〇〇〇
32 姓名鑑定秘法講習録 全三冊 松原俊月著 洗心会 昭9 三、〇〇〇

萩書房

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル  
上御霊前町四一二  
電話(〇七五)四三一三七二一  
振替 京都 八一一四三三六

- 絶版新書特集
1 曙寛と愚庵 相馬御風 初版 春秋文庫 昭9 一、五〇〇
2 民衆詩人 白樂天 上村忠治 初版 春秋文庫 昭13 一、五〇〇
3 志賀直哉 岩上順一 三笠新書 昭30 一、〇〇〇
4 小説 引力 李廣田 岩波新書青版 昭31 二、〇〇〇
5 小説 結婚登記 趙樹里 初版 帯付 昭28 一、五〇〇
6 小説 東海巴山集 老舎 初版 帯付 昭28 一、〇〇〇
7 支那の経済機構 何幹之 初版 岩波新書赤版 昭15 一、五〇〇
8 支那社会の科学的研究 ウィットフォールケル 昭16 一、五〇〇
9 奉天二十年 上下二冊 クリスティ 昭17 一、五〇〇
10 日本資本主義史上の指導者たち 土屋喬雄 昭15 三、〇〇〇
11 近代医学の建設者 メチニコフ 昭19 一、〇〇〇
12 日本 宇田道隆 昭15 一、〇〇〇
13 日海 本間順治 昭14 一、〇〇〇
14 忘れられた思想家 上下二冊 ノーマン 岩波新書 昭44 一、五〇〇
15 伊能忠敬の測量日記 藤田元春 ラジオ新書 昭16 二、〇〇〇
16 猶太建国運動史 菅原憲 弘文堂 昭17 一、八〇〇
17 能と能面 金剛藏 昭15 一、〇〇〇
18 希臘神話 原隨園 昭17 一、〇〇〇
19 アサヒ相談室 山登り 日本山岳会編 朝日新聞社 昭29 一、〇〇〇
20 高野聖 五来重 昭40 一、二〇〇
一〇〇〇円均一 〇犯罪者の教育・高瀬安貞昭15 〇現代支那の性格・丹羽正義昭17 〇言語の構造・泉井久之助昭14 〇日本美術・植田壽藏昭17 (以上弘文堂) 〇学生と読書・瀬沼茂樹編昭30 〇十代の読書・熊谷孝昭30 〇(以上河出書)
八〇〇円均一 〇動物の感覚生活・本城市太郎昭14 〇異常体質・日戸修一昭16 〇国民と教養・木村素衛昭14 〇日本精神と世界精神・柳田謙十昭16 〇ランケと世界史学・鈴木成高・昭16 〇歴史哲学と政治哲学・高坂正顕昭17 〇ニイチエ・山元一郎昭15 〇否定の論理の発達・家永三郎昭18 〇フランス哲学の主要問題・今井仙一昭16 〇ゴッタルの経済学・酒枝義旗昭18 〇萬葉の世界・北住敏夫昭16 〇物語の様式・森岡常夫昭16 (以上弘文堂)

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二二一、二五八八  
振替 京都 五十三三二六

18	世紀における英文学と社会	石田憲次	昭31	八、〇〇〇
2	現代イギリス文明批評	矢本貞幹	昭31	四、〇〇〇
3	近代英国の諸断面	石田憲次	昭19	三、〇〇〇
4	英国の国家構造	石田憲次	昭22	二、〇〇〇
5	十九世紀の小説	海老池俊治	昭31	四、〇〇〇
6	イギリスの社会小説(一六三—一七六)	飯沼馨	昭33	三、〇〇〇
7	作家と政治	飯沼馨	昭41	六、〇〇〇
8	ここかしこ	石田憲次	昭23	一、〇〇〇
9	英文学 感銘と考察	石田憲次	昭24	四、五〇〇
10	英文学風土記	石田憲次	昭47	四、八〇〇
11	文学論	竹友藻風	昭15	四、五〇〇
12	書物と人	竹友藻風	昭2	三、〇〇〇
13	冬原帖	竹友藻風	昭9	九、〇〇〇
14	英文学印象記	平田亮木	昭13	二、〇〇〇
15	英文学随筆 爐に凭りて	高木中之助	昭32	三、五〇〇
16	湖畔 ウーズワースの詩蹟を訪ねて	増野正樹	昭28	二、〇〇〇
17	衣裳論	増野正樹	昭14	二、〇〇〇
18	英訳カインの末裔	益田道三	昭30	二、〇〇〇
19	比較文学 その概念と研究例	益田道三	昭30	二、〇〇〇
20	比較文学的散步	益田道三	昭16	四、八〇〇
21	近代唯美思潮研究	加藤憲市	昭18	二、〇〇〇
22	近代の精神	倉長 真	昭40	六、五〇〇
23	イギリスの文学とキリスト教	斎藤 勇	昭16	三、八〇〇
24	英語讃美歌	佐々木達	昭30	三、八〇〇
25	笑いの文学 スターンとスモレット	佐々木達	昭30	三、八〇〇
26	現代英詩の表現	佐々木達	昭30	三、〇〇〇
27	現代詩論	金子健二	昭40	六、〇〇〇
28	巡歴詩人	金子健二	昭17	八、〇〇〇
29	英詩鑑賞 沢詩篇	斎藤 勇	昭13	三、〇〇〇
30	英米百家詩選	小林潜龍	昭41	五、八〇〇
31	小説と詩の文体	西角克夫	昭32	二、〇〇〇
32	詩心巡礼 バイロン他 詩人の研究	福原橋太郎	昭13	三、〇〇〇
33	ワーズワースとコールリッチ	岡本昌夫	昭31	四、〇〇〇

34	シエリイ	萩田庄五郎	昭24	四、五〇〇
35	詩と恋愛	阿部知二	昭12	四、〇〇〇
36	詩聖テニスン	岡沢 武	昭38	六、五〇〇
37	哀詩イノック・アーデン	岡沢 武	昭12	二、八〇〇
38	ハアディ詩集	吉原重雄	昭5	四、八〇〇
39	ペーネウルフ 附フラインネスブルグ断章	長谷 盛	昭41	五、〇〇〇
40	言論と自由	ミルトン	昭24	七、〇〇〇
41	コウマス	上野 石田	昭8	五、〇〇〇
42	デウイッド・カッパイルド 上・下	安田章一郎	昭26	三、〇〇〇
43	ホプキンスのこころ	安田章一郎	昭54	三、〇〇〇
44	フロス河畔の水車場	吉野好 文	昭25	一、〇〇〇
45	サイラス・マアナ	G. 金野 浩	昭15	二、〇〇〇
46	トマス・ハーディ研究	橋本 修	昭33	五、五〇〇
47	ハアディ文学の研究	大沢 衛	昭42	四、八〇〇
48	胡麻と百合	栗原吉城	昭2	二、五〇〇
49	幻の人	小川秋骨	昭12	三、八〇〇
50	遍歴の王子	小川和夫	昭24	七、八〇〇
51	室島・プリンスオットー	河野好夫	昭26	六、八〇〇
52	ねじけシヤネット	河田智雄	昭50	二、五〇〇
53	コンラッドの小説	宮崎孝一	昭13	四、八〇〇
54	ルネサンスのペクタ	佐久間政一	昭39	一、八〇〇
55	ガザに書いて ハックスレー	本多顕彰	昭33	六、〇〇〇
56	ジョイスの文学	永松 定	昭7	七、八〇〇
57	ユリシリズ I・II	志賀 勝	昭34	二、〇〇〇
58	カレンス	志賀 勝	昭17	二、〇〇〇
59	カクテル・パーティー	T. S. エリオット	昭29	三、五〇〇
60	モルフイ公爵夫人	の 田中 吉田	昭38	三、五〇〇
61	ワイルド悲劇全集	荒井良雄	昭50	二、五〇〇
62	象徴劇 如意の郷	岡倉・武井 訥	昭14	三、五〇〇
63	ニュークリティシズム概論	川崎寿彦	昭39	二、〇〇〇
64	小説と映画	中村・三輪	昭33	二、五〇〇
65	アメリカ演劇の研究	日本演劇学会	昭25	六、五〇〇
66	ラシカとシェイクスピア	スチルマン	昭40	四、五〇〇
67	エマルソン 拾遺文豪⑥	北村門太郎	昭27	四、五〇〇
68	ホオ評伝	野口米次郎	昭15	二、〇〇〇
69	エドガア・ホオ	森 陶外	昭23	三、〇〇〇
70	ボオ 病院横町の殺人犯	森 陶外	昭24	二、〇〇〇
71	ソロー研究	川津孝四	昭47	二、〇〇〇
72	マーク・トウェイン 性格と作品	浜田政二郎	昭30	二、五〇〇

73	神の小さな土地	川口真太郎	昭28	二、八〇〇
74	詳説ギリシア文学史	黒田忠義	昭14	八、〇〇〇
75	ギリシア神話と古典文学	佐々木理	昭19	四、〇〇〇
76	ギリシア神話 上・下	高杉 郎	昭50	四、五〇〇
77	アリストパネス・ナメンドロス	新岡良二	昭32	八、五〇〇
78	ヘロドトス	世界古典文学全集	昭44	二、五〇〇
79	アガメムノン	伊藤 整	昭70	九、八〇〇
80	ブルースト研究 紹介翻訳批判	伊藤 整	昭50	六、八〇〇
81	希臘悲劇	田中・内山	昭16	三、〇〇〇
82	ダンテ神曲 全3冊	中山昌樹	昭13	一、五〇〇
83	ダンテ神曲の研究	中山昌樹	昭13	五、〇〇〇
84	詩聖ダンテ	中山昌樹	昭13	五、〇〇〇
85	ダンテと其時代 時代・生涯・著書	黒田正利	昭35	二、五〇〇
86	小説の變遷 現代フランス作家をめぐって	白井浩司	昭16	三、〇〇〇
87	フランス近代詩の方向	大島博光	昭16	三、〇〇〇
88	フランソワ・ウイヨン全集	佐藤輝夫	昭51	四、五〇〇
89	サド侯爵の生涯	濫澤龍彦	昭42	二、〇〇〇
90	芝居は眺向き モルナアル	鈴木善太郎	昭9	三、五〇〇
91	アポリネール遺稿詩篇	河口大学	昭47	三、五〇〇
92	芸術論集 一・二	竹本忠雄	昭52	五、五〇〇
93	反回想論	村松 剛	昭47	一、五〇〇
94	評伝アンドレ・マルロー	成瀬無極	昭13	三、五〇〇
95	近代独逸文学思潮	深田 甫	昭51	二、五〇〇
96	夢の象徴学 シューベルト	田中梅吉	昭21	二、八〇〇
97	グリム研究 著述と宿命	山下 肇	昭22	二、八〇〇
98	ハイネ浪漫派	国松孝一	昭24	六、〇〇〇
99	美しいいざない	国松孝一	昭25	六、〇〇〇
100	湖畔	片山敏彦	昭27	二、〇〇〇
101	リルケ詩集 果樹園	片山敏彦	昭27	二、〇〇〇
102	レエルモント	奥沢文朗	昭14	三、〇〇〇
103	晩年のトルストイ	寿岳文章	昭15	三、〇〇〇
104	ドストエフスキのリアリズムの獨白性	黒田正利	昭46	四、〇〇〇
105	ドストエフスキ研究	黒田正利	昭9	三、八〇〇
106	ドストエフスキ 人文学思想	新城和	昭19	一、八〇〇
107	ドストエフスキ	西村孝次	昭11	三、〇〇〇
108	ドストエフスキ 覚書	森 有正	昭39	一、八〇〇
109	チェーホフ研究 その作品と生涯	池田健太郎	昭55	三、〇〇〇
110	チェーホフの仕事部屋	池田健太郎	昭35	一、五〇〇
111	チェーホフ トリオレ	川俣晃白	昭41	二、五〇〇

御注文は各書店へ

(11)

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル  
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五)四五一〇五二三  
振替 京都 三一九一四八

- 1 増補新島襄先生詳年譜 森中章光 同志社 昭34 二、〇〇〇
- 2 新島襄人生読本 第一書房 昭13 一、〇〇〇
- 3 新島先生記念集 上製 同志社校友会 昭37 一、〇〇〇
- 4 蘇翁言志録 民友社編 民友社 函付 昭12 一、〇〇〇
- 5 明治大帝史 笠原輔多雄編 公益通信社 大3 一、〇〇〇
- 6 賢哲伝 上巻 有馬島野編 弘道館 大8 一、〇〇〇
- 7 タイ国史 ウッド、郡司喜一郎訳 富山芳 昭16 一、〇〇〇
- 8 モールと將軍 レーニン主義研究所 栗原佐訳 大月書店 昭41 二、〇〇〇
- 9 ルソーの真髓 松本雲舟、原共訳 南北社 大3 一、〇〇〇
- 10 偶像再興 和辻哲郎 岩波書店 函付 昭11 一、〇〇〇
- 11 地名の研究 柳田国男 古今書院 函付 昭16 一、〇〇〇
- 12 族制語彙 柳田国男 日本法理研究会 昭17 一、〇〇〇
- 13 石神問答 柳田国男 創元社 昭17 一、〇〇〇
- 14 満洲の民芸双書 本山桂川 昭和書房 カバ付 昭18 二、〇〇〇
- 15 西陣織物同業組合沿革史 同組合 非売品 昭14 一、〇〇〇
- 16 昆虫言葉國民性 市川三喜 研究社 昭14 一、〇〇〇
- 17 思想と生理 林義隨筆集 人文書院 昭11 一、〇〇〇
- 18 終編金夜叉 小栗風葉 初函付 大4 一、〇〇〇
- 19 蘆花伝 前田河広二郎 岩波書店 初函付 大13 一、〇〇〇
- 20 順礼紀行 徳富健次郎 警醒社 昭13 一、〇〇〇
- 21 ふるさと 正宗得三郎 人文書院 昭18 一、〇〇〇
- 22 芸苑今昔 奥付欠 斎藤隆三 創元社 昭22 一、〇〇〇
- 23 悪としての文学 初帯 函付 森川達也 審美社 昭47 一、〇〇〇
- 24 吉行淳之介初期作品集 函付 冬樹社 昭47 一、〇〇〇
- 25 異常が正統をあげるとき 白井健三郎 朝日出版 昭47 一、〇〇〇
- 26 六道遊行 石川淳 集英社 昭58 一、〇〇〇
- 27 萩風蘭土記 井伏鱒二 新潮社 昭58 一、〇〇〇
- 28 感想 小林秀雄 新潮社 昭58 一、〇〇〇
- 29 一色一生 志村ふくみ 求竜堂 昭59 一、〇〇〇
- 30 宿命についてなど 渡辺一夫 白水社 昭52 一、〇〇〇
- 31 日本のSFの世界 福島正美編 角川書店 昭52 一、〇〇〇
- 32 大木よね三郎家の婆の記憶 三留理男編 田畑書店 昭49 一、〇〇〇
- 33 石川一雄獄中日記 部落解放本部編 三一書房 昭52 一、〇〇〇

〒604 京都市中京区寺町通三条北

其中堂

電話(〇七五)二二二二一九七一  
振替 京都 二二五三三八

- 1 唯識学研究 上巻 教史論 深浦正文 昭57 四、〇〇〇
- 2 唯識論全 下巻 教義論 昭57 七、〇〇〇
- 3 唯識論解説 昭60 五、〇〇〇
- 4 唯識論講義(大藏経講座) 花田凌雲 昭59 六、〇〇〇
- 5 唯識の哲学(サーラ叢書) 横山絃一 昭59 二、〇〇〇
- 6 唯識とは何か 二巻抄を読む 昭61 二、〇〇〇
- 7 唯識思想入門(レグルス文庫) 昭61 六、〇〇〇
- 8 唯識の構造 昭60 二、〇〇〇
- 9 唯識学典籍史 昭60 二、〇〇〇
- 10 唯識三十頌(仏典講座) 結城令聞 昭60 二、〇〇〇
- 11 唯識根本教理 保坂玉泉 昭51 二、〇〇〇
- 12 唯識論大綱 梶川乾堂 昭57 二、〇〇〇
- 13 唯識思想(講座大乗仏教) 高崎直道 昭59 二、〇〇〇
- 14 梵文唯識二十論三十頌釈 S.じゅい 昭59 一、〇〇〇
- 15 二十唯識論解説 明石恵達 昭60 五、〇〇〇
- 16 瑜伽行唯識学の研究 武内紹晃 昭54 三、〇〇〇
- 17 唯識と道元禪の要諦 小川弘貴 昭61 五、〇〇〇
- 18 凡夫が凡夫に呼びかける唯識 太田久紀 昭60 二、〇〇〇
- 19 仏教の深層心理 昭60 一、〇〇〇
- 20 認識と超越(唯識)(仏教の思想) 服部他 昭60 四、〇〇〇
- 21 深層意識の解明 仲野良俊 昭60 四、〇〇〇
- 22 選註成唯識論 太田久紀 昭60 三、〇〇〇
- 23 新編成唯識論 小島恵見 昭46 三、〇〇〇
- 24 親心覚夢抄(仏典講座) 太田久紀 昭56 三、〇〇〇
- 25 撰大乘論 上 長尾雅人 昭58 四、〇〇〇
- 26 撰大乘論講義 上田義文 昭57 四、〇〇〇
- 27 撰大乘論 佐々木月樵 昭52 二、〇〇〇
- 28 ヴァースパンドウ(人類の知的遺産)三枝充忠 昭58 一、〇〇〇
- 29 世親唯識集(大乗仏典) 長尾雅人他 昭56 一、〇〇〇
- 30 世親唯識の研究 下 結城令聞 昭61 二、〇〇〇
- 31 全 上 昭61 二、〇〇〇
- 32 仏教学関係雑誌論文文類目録 I~IV 龍谷大学仏教学研究室 昭61 四、〇〇〇

〒602 京都市左京区田中大久保町22  
(東大路叡電交差北)

山崎書店

電話(〇七五)七一一七一四八  
振替 京都 〇一一八二二六

- 1 回想のゼザンヌ 蔵印有 岩波文庫 昭8 八〇〇
- 2 ホワロー詩学 蔵印有 岩波文庫 昭9 八〇〇
- 3 フォレスタイの聖書 蔵印有 岩波文庫 昭16 五〇〇
- 4 舞林アンの乞女 蔵印有 岩波文庫 昭13 三〇〇
- 5 柳曲扇林・戯財録 印消 岩波文庫 昭18 一、〇〇〇
- 6 頼山陽詩抄 蔵印有 岩波文庫 昭19 六〇〇
- 7 日本水滸(全七巻) 蔵印有 岩波文庫 昭19 一、〇〇〇
- 8 夢の世界 エリス 蔵印有 岩波文庫 昭16 八〇〇
- 9 ラスキン芸術経済論 蔵印有 岩波文庫 昭2 一、〇〇〇
- 10 ベーター文学芸術復興 蔵印有 岩波文庫 昭26 一、〇〇〇
- 11 作曲家大観 大田黒元雄 昭22 五〇〇
- 12 映画社会史 北川鉄夫 昭22 五〇〇
- 13 現代詩人全集 全10冊 角川文庫 昭15 三、〇〇〇
- 14 神社日本史 大毎文化部編 星野書店 昭15 一、〇〇〇
- 15 野郎の旅行 末広鉄腸 磯部甲陽堂 大9 五〇〇
- 16 松下村塾の指導者 岡不可止 文芸春秋 昭19 一、〇〇〇
- 17 松陰先生の教育力 武蔵野書院 昭9 一、〇〇〇
- 18 マジャーラ 支那問題概論 文化集団社 昭9 一、〇〇〇
- 19 満鉄を語る 松岡洋右 第一出版社 昭12 一、〇〇〇
- 20 米英東亜侵略史 大川周明 第一書房 昭17 一、〇〇〇
- 21 現代風俗帖 初 木村荘八 東峰書房 昭27 三、〇〇〇
- 22 出雲における小泉八雲 八雲会 昭11 一、〇〇〇
- 23 薄明のひと 初 甲地文子 角川書店 昭34 一、〇〇〇
- 24 こつまなんきん 初 今東光 講談社 昭35 一、〇〇〇
- 25 ルナル博物館誌 蔵印有 白水社 昭17 五〇〇
- 26 アナトリス 神々は渴く 蔵印有 醜燈社 昭21 五〇〇
- 27 父親としてのゲネチ 第一書房 昭16 一、〇〇〇
- 28 渾身の白鳥 アンナ・パプロア 丹青書房 昭18 一、〇〇〇
- 29 シナリオ読本 新藤兼人 丹権書房 昭35 一、〇〇〇
- 30 さあさあお立ち立い 寺山修司 徳間書店 昭43 二、〇〇〇
- 31 イメージフォーラム(前編) 蔵印有 徳間書店 昭57 二、〇〇〇
- 32 季刊歴史と文学 前編より 蔵印有 三一書房 昭57 二、〇〇〇

八木書店古書部

電話(〇七五)八一—三八九〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

- 1 短冊中島華鳳画。春日庵正裕四糸小橋住慶三 各枚 二,000
- 2 短冊今村正文彦根藩士。野沢鎌村近江鎌掛人 各枚 三,000
- 3 短冊賜景節蒲生郡日野住僧。山口咲子日野人 各枚 三,000
- 4 短冊矢野美隆日野初代町長。高田信祐愛知郡 各枚 三,000
- 5 短冊金子知良愛知郡人。浜崎望海日野人 各枚 三,000
- 6 短冊久下嘉時狂歌京都。倉谷友干又後康京都 各枚 三,000
- 7 短冊真下弘鑑京都人。三田村賀豊京都人 各枚 三,000
- 8 短冊園長詔釜座の人。日調京都人 大原茂彦の歌 各枚 三,000
- 9 短冊鎌田魚鱸本能寺墓有。永田雅徳仏光寺岩上各枚 三,000
- 10 短冊川崎正房神崎郡人。岡淨休鎌掛人 各枚 三,000
- 11 短冊山城山崎美濃守有秀。倉垣勝守後維慶忠 各枚 三,000
- 12 短冊宝鏡寺内徳岡王嶺。辻茂兵衛京都人 各枚 三,000
- 13 短冊千葉県香取郡小御門村沢田重明等同村10枚 各枚 八,000
- 14 短冊遠山重實芝太神宮社掌。中川長雄近衛家臣各枚 三,000
- 15 短冊秋岡守達明治京医師。宝鏡寺内阿刀 各枚 三,000
- 16 短冊木場清生賀茂御祖神社宮司。山鹿楓城京都各枚 三,000
- 17 短冊備中玉島人医師藤田荒次郎。小出文尉 各枚 三,000
- 18 短冊小西長房。尚務。希烈卿 各枚 三,000
- 19 短冊加古文鳳播州北条の医師。千家綱子明41 各枚 三,000
- 20 短冊池部釣 各枚 八,000
- 21 短冊崎室画冬景色。中野景善鎌掛人 各枚 三,000
- 22 短冊近江坂田郡柏原宿業師尊住長城。秀甫船出し函各 三,000
- 23 短冊確井梅嶺加賀鶴来住明元。 各枚 三,000
- 24 短冊風貫輝典。 根村盈紀。 龜山藩近藤百助 各枚 二,000
- 25 短冊片岡直温。 小野神社吉見笑風。 各枚 二,000
- 26 短冊三好赤甫近江甲賀郡人明5。石田下野守為治各 五,000
- 27 短冊山本松濤越后。小西長右衛門門田の人 各枚 二,000
- 28 短冊伊庭太郎兵衛玉島の人。西本願寺光澤上人各枚 二,000
- 30 短冊一幅。花園前少将公純郷 三,000
- 31 短冊小短冊3.5cm×17cm。東民渡辺昇。大阪府知事 三,000
- 32 唯一神道參詣之次第幽齋。吉田二位へ相伝一卷寛政 一五,000
- 33 美濃国全図。木版色彩。更地堂版 一〇,000

- 34 千種有功筆。書社一通 三,000
- 35 彰如上人御得度之節使用出家唄請外如來唄講等 一五,000
- 36 三条実萬郷筆。書社一通 三,000
- 37 栗田月花筆。俳句一紙。江州堅田の人 三,000
- 38 色紙。岡崎水陸。書社一通 三,000
- 39 元大臣。江見村筆。書社一通 三,000
- 40 摂津富田笑木高槻冠吟句集。 文政2 五,000
- 41 京都区組細図。一紙。 明12 一五,000
- 42 文博川田鑿江筆。書社一通備中松山藩 明29 五,000
- 43 長梅外筆。書翰一通豊后日田の人文学講師 明18 八,000
- 44 俳人蒼虬筆。書社一通虫入ボロボロ。書名なし 三,000
- 45 佐野和楽筆。書社一通虫入ボロボロ。 明初 三,000
- 46 歌東碧梧桐筆。葉書一通。傷有。 八,000
- 47 尊融親王筆。書社一通猿夷先鋒国恩に報し度 一五,000
- 48 歌舞伎25氏。魚に内んだ短評状一紙初欠。弘化3 五,000
- 49 橋本桂園筆。書社一通。堺人小品虫入傷。 明初 三,000
- 50 近正位。鴨祐持筆。和歌一通。70才書。 三,000
- 51 正來風騷。連歌伝書。 嘉慶元 八,000
- 52 連歌一紙末尾欠紙背文書表は真言次第書。 延徳2 八,000
- 53 齊藤安空守好女筆。馬術伝書。 永禄13 五,000
- 54 出雲国島根郡持田村小学校生徒野村簿。 明25 二,五〇〇
- 55 足利義政公筆。色紙。署名のみで歌読めず。 八,000
- 56 吉川英治傳。書翰一通。宮部宛。 三,000
- 57 かな正信傳。 古版 三,000
- 58 那薩延天在所庫。大法師嚴雅筆。 永享9 三,000
- 59 武田玄伯筆。書社一通。 元禄8 八,000
- 60 巖谷小波筆。書翰一通封筒付。木戸公宛。 大2 八,000
- 61 松平慶永并侯爵茂昭連名書状松平隆客殿一通。 明21 五,000
- 62 菅公梅之歌東風吹かば拓本一幅真光寺藏版。 三,000
- 63 桃や西又右衛筆廻状一通本むさび道秀宛元和8 五,000
- 64 上様丸九斗。櫻御門遍り御移徒の当日云々状一紙。 三,000
- 65 釈氏。里風筆。句一幅。前詞入り。江戸人。 五,000
- 66 加藤清正像。一幅。肉筆彩色。大將飾用。明初 五,000
- 67 男爵佐藤進筆茶釜七絶詩一幅佐倉藩医后軍医総監。 一五,000
- 68 藍田藤井先生筆。一行八字。易堂書一幅。明11 三,000
- 69 四国電場62番墨摺一幅一之宮宝寿寺観音像。 三,000
- 70 染粉浴解法心得方綿布染色法一紙。明治初 三,000
- 71 扇面山東京伝画鶴牛に驚く提灯持つ武士戯作一幅。 五,000
- 72 中村成章号竹筒。李巴書集。拓本一幅。 三,000

- 73 旭光富士山図。勢園写并賛一幅。 八,000
- 74 自得筆。南画。一幅。 五,000
- 75 徐象坤。号厚庵。農夫并釣夫。双幅。明朝画 三,000
- 76 春江筆。七絶詩一絹。少しみ有。 三,000
- 77 宮澤筆。松梅農耕図。一幅。 五,000
- 78 九々鱗。五嶽筆。俳句一幅。 三,000
- 79 笠置山。墨摺一紙。 明治 三,000
- 80 新川山田長宣筆。七言絶句一紙越中の人。 明38没 三,000
- 81 禅勝山徹心大無和尚筆。虎之図一幅。傷物。 一五,000
- 82 御即位図。石版。一幅。 大正初 三,000
- 83 益仁法親王染筆横物二字一幅後桃園天皇猶子。 三,000
- 84 磯丸81翁筆。あみだ仏を詠める一首一紙。 三,000
- 85 来原良威筆書翰はりませ一幅木戸公美父長藩。 一〇,000
- 86 本田定年。号退庵筆七絶詩一絹しみ有書家。大12没。 五,000
- 87 羽倉可亭筆。風景画観阿弥賛。一幅汚傷文政11。 五,000
- 88 大僧郁永明筆。梵字并一切衆生云々。一幅。 八,000
- 89 今上兩陛下御真影并紫宸殿御即位図。一幅。 五,000
- 90 古瓦拓本一幅洛大仏殿大内裏東寺志賀郡豊臣館等。 一五,000
- 91 創刊号小学生のための科学昭32。中学時代2年昭31各冊。 五,000
- 92 創刊号明星昭22。大受験コース昭33。典籍大4各冊。 三,000
- 93 創刊号われらの科学昭21。古代文学同志社。昭32。各冊。 二,000
- 94 創刊号新人京都昭34。京都文学昭23。自照昭17。各冊。 二,000
- 95 創刊号国文学誌昭6。大和総研究昭17。改造昭21。各冊。 二,000
- 96 創刊号書道世界昭11。画報戦記昭35。洛風昭30。各冊。 二,000
- 97 創刊号一路昭30。受験の数学昭29。合格の数学昭33。各冊。 二,000
- 98 創刊号地理学昭28。地理昭31。歴史地理教育昭29。各冊。 二,000
- 99 創刊号労働評論昭21。趣味読本昭25。光昭20。文芸学昭22各冊。 二,000
- 100 創刊号犯罪科学昭5。江戸合語昭2。日本美術明31。各冊。 三,000
- 101 岩国藩儒。森脇斗南筆。詩一幅。 五,000
- 102 呉丹榭画於舟江。牡丹図。詩一幅。清朝期。 三,000
- 103 羅漢之図一紙武村東苑筆華頂山天真居士賛しみ有。 五,000
- 104 齊藤鷲江碑文。拓本一幅。 三,000
- 105 観雪樓之記。田子麗筆。行書細記一幅。 明17 三,000
- 106 春曙。櫻陰居士二行詩。一絹。少しみ有。 三,000
- 107 山笠仙菊筆。立春之歌。一紙。 三,000
- 108 今城権中納言定成郷。一行一紙。傷有。汚。 三,000
- 109 卒業証書一紙。東京専門学校長。鳩山和夫。 明26 三,000
- 110 卒業証書一紙。東京専門学校長。鳩山和夫。 明26 三,000
- 111 陳曾輝筆。詩一幅。細記。少しみ有。 三,000

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル

(朝日会館前)

# キク才書店

電話(〇七五)二二二七三三四  
振替 京都市 一七六四〇

## 文芸作品初版本特集

1	多情多恨	尾崎紅葉	春陽堂	明30	七〇〇〇
2	心中船	尾崎紅葉	春陽堂	明40	三、〇〇〇
3	忘れがたみ	若松賤子	博文館	明36	三、〇〇〇
4	半生の文章	大町桂月	廣文堂書店	明41	三、〇〇〇
5	何処へ	正宗白鳥 函欠	易風社	明41	六、〇〇〇
6	走馬燈	森鷗外	背少痛	大2	五、〇〇〇
7	ちりひじ	森鷗外 函	千草館	大4	七、〇〇〇
8	独逸日記	森鷗外	富士出版	昭23	二、〇〇〇
9	少年行	中村星湖	植竹書院	大4	二、〇〇〇
10	下町情話	久保田万太郎 函	函(箱)	大4	四、〇〇〇
11	だれいふともなく	久保田万太郎	函(少汚)	昭22	二、〇〇〇
12	西鶴五人女	吉井勇 函	函(少汚)	大5	三、五〇〇
13	紅夢集	長田幹彦 函(痛)	春陽堂	大5	六、〇〇〇
14	鶯 姫	長田幹彦 汚	春陽堂	大8	三、〇〇〇
15	歌磨をめぐる女達	邦枝完二 函(痛)	函(痛)	昭6	三、〇〇〇
16	江戸一代女	林和 函	春陽堂	大4	二、〇〇〇
17	粧蝶集	泉鏡花 函(汚)	春陽堂	大6	一、五〇〇
18	芍薬の歌	泉鏡花 函(痛)	春陽堂	大8	八、〇〇〇
19	友染集	泉鏡花 汚	春陽堂	大8	八、〇〇〇
20	薄紅梅	泉鏡花 函	中央公論	昭14	一、六〇〇
21	楠木正成	直木二十五 函	中央公論	昭7	一、八〇〇
22	今の世の奇蹟	黒岩涙香 函	扶桑堂	大8	三、〇〇〇
23	第二の誕生	近藤経一 函(痛)	天佑社	大8	三、〇〇〇
24	明るい部屋	長興善郎 汚	春陽堂	大8	三、〇〇〇
25	クルルへの娘	長興善郎	主文社	昭22	三、〇〇〇
26	亜米利加記念帳	水上瀧太郎 函(痛)	函(痛)	大9	三、〇〇〇
27	機械	横光利一	創元社	昭10	六、〇〇〇
28	空しき青春	三上於菟吉	聚英閣	大10	一、八〇〇
29	小説東京	第二部労働編 上司小剣 函	函	大11	三、〇〇〇
30	戯曲	地に傾ぬる秋迦 友松圓諦 函	函	大11	三、五〇〇
31	エトランゼ	行舟西條 島崎藤村	函	大11	三、〇〇〇
32	九宮鳥	松岡譲 背少痛	春陽堂	大11	二、〇〇〇
33	愛鬱な愛人	松岡譲	第一書房	昭3	一、五〇〇
34	わが文芸陣	菊地寛	新潮社	大12	一、六〇〇
35	薄水を踏みて	沖野岩三郎 函(痛)	函(痛)	大12	二、八〇〇
36	濁流に泳ぐ	麻生久 函(痛)	新光社	大12	二、八〇〇
37	痴雪の戯曲	大森痴雪 函	文化協会	大12	二、〇〇〇
38	四葉の苜蓿	里見弴 函	プラトン社	大12	六、八〇〇
39	文藝管見	里見弴 函(汚)	函(汚)	大14	二、八〇〇
40	その人	里見弴 背少痛	春陽堂	昭5	三、〇〇〇
41	金の鍵の匣	里見弴 函	中央公論	昭11	三、〇〇〇
42	八景記	里見弴 初版・刷・函	函	昭17	一、八〇〇
43	小暴君	里見弴	北辰出版	昭22	一、五〇〇
44	大道無門	里見弴	山根書店	昭22	二、五〇〇
45	風災	里見弴	明治書院	昭24	一、〇〇〇
46	白魚河岸	伊原青々園 背少痛	新作社	大13	一、三〇〇
47	一青年の告白	辻潤(訳) 函	新作社	大13	四、八〇〇
48	阿片溺愛者の告白	辻潤(訳) 汚	汚	大14	二、八〇〇
49	通盛の妻	田山花袋 汚	金星社	大15	一、三〇〇
50	大都(市の傭人)	細田源吉 函(痛)	函(痛)	大15	二、八〇〇
51	奴隷	細井和喜藏 背痛	改造社	大15	一、八〇〇
52	パンヤ文六の思案	岸田国士 函	改造社	大15	三、五〇〇
53	喜劇集	昨今横浜異聞 岸田国士 汚	函	昭6	二、八〇〇
54	戯曲集	浅間山 岸田国士 函	函	昭7	五、〇〇〇
55	小説 愚弟賢兄	佐々木邦 汚	新潮社	昭4	二、五〇〇
56	唐人お吉	十一谷義三郎 汚	新潮社	昭5	一、五〇〇
57	野に叫ぶもの	佐藤紅緑 函(汚)	函(汚)	昭6	五、〇〇〇
58	創作集	冬鶯 倉田百三 函(背ヤケ)	函(背ヤケ)	昭6	三、〇〇〇
59	随筆集	自然・気まぐれ・紀行 戸川秋骨	函	昭6	五、〇〇〇
60	聖なる乳房	山中峯太郎 函(汚)	函(汚)	昭7	四、〇〇〇
61	蕩たき花	中河與一 函(痛)	函(痛)	昭8	六、五〇〇
62	失業の庭	中河與一 函	中央公論	昭25	一、五〇〇
63	悲劇の季節	中河與一 函	河出書房	昭27	三、〇〇〇
64	文章読本	谷崎潤一郎 函	函	昭22	三、〇〇〇
65	二月堂の夕	谷崎潤一郎 函(汚)	函(汚)	昭22	四、五〇〇
66	瘋癲老人日記	谷崎潤一郎 函	函	昭37	三、八〇〇
67	柘榴のある庭	林房雄 函	竹村書房	昭9	一、八〇〇
68	黒髪懺悔	高岡辰子 表紙痛	中央公論	昭9	一、五〇〇
69	軍閥(長編小説)	中西伊之助	中央公論	昭10	一、三〇〇
70	空想部落	尾崎七郎	中央公論	昭11	四、五〇〇
71	弄獅子	室生犀星 背汚	背汚	昭11	六、五〇〇
72	駱駝行	室生犀星	背汚	昭12	三、〇〇〇
73	黒髪の手	室生犀星	新潮社	昭30	二、〇〇〇
74	杏つ子	室生犀星	新潮社	昭30	二、〇〇〇
75	秋箋	芹澤光治良	竹村書房	昭12	二、八〇〇
76	清き泉を掘らん	芹澤光治良	北辰堂	昭29	一、五〇〇
77	江戸城明渡し	藤森成吉 函(痛)	函(痛)	昭13	六、五〇〇
78	長編小説 人間	前田河廣一郎 函	函	昭13	二、五〇〇
79	土と兵隊	宇野浩二 函	函	昭13	二、〇〇〇
80	千萬元と誰も我行かん	久板栄二郎 函	函	昭13	一、三〇〇
81	哀歎の曲	河上漢介 函(少痛)	函(少痛)	昭14	八、〇〇〇
82	器用貧乏	宇野浩二 函(汚)	函(汚)	昭15	二、五〇〇
83	晩夏	堀辰雄 函(汚)	函(汚)	昭16	二、〇〇〇
84	得能五郎の生活と意見	伊藤整 函(痛)	函(痛)	昭16	二、八〇〇
85	南枝の春	円地文子 函(痛)	函(痛)	昭16	二、〇〇〇
86	随筆集	地を泳ぐ 藤田嗣治 函(痛)	函(痛)	昭17	三、〇〇〇
87	白い壁画	富澤有為男 汚	汚	昭17	一、八〇〇
88	津軽の野づら	深田久弥 函	函	昭20	一、五〇〇
89	パンドラの匣	太宰治 背少痛	背少痛	昭21	二、八〇〇
90	映山紅	志賀直哉 函	函	昭21	四、八〇〇
91	濁つた頭	志賀直哉 少汚	少汚	昭21	二、五〇〇
92	夏姿	永井荷風	扶桑書房	昭22	一、八〇〇
93	創作ノート	林芙美子 函	函	昭22	二、五〇〇
94	可能性の文学	織田作之助 カホリ書房	カホリ書房	昭22	一、八〇〇
95	櫻桃	太宰治 少汚	少汚	昭23	四、〇〇〇
96	妻よなむれ	坂口安吾 函	函	昭23	二、八〇〇
97	熊	徳永直 函	函	昭24	二、八〇〇
98	おぼろ駕籠	寒川光太郎 函	函	昭24	二、八〇〇
99	眞贋	小川秀雄 函	函	昭26	二、〇〇〇
100	異邦人論	谷崎潤一郎 函	函	昭27	二、〇〇〇
101	鍵	谷崎潤一郎 函	函	昭31	四、〇〇〇
102	天目山	石井計記 函	函	昭31	一、五〇〇
103	旅情	田村泰次郎 函	函	昭32	一、五〇〇
104	女拓	田村泰次郎 函	函	昭32	一、五〇〇
105	当世鹿もどき	谷崎潤一郎 函	函	昭36	一、八〇〇
106	幻花	梅崎春生 函	函	昭40	一、八〇〇
107	妻	田中純 限定 函	函	昭41	一、六〇〇

千606 京都市左京区浄土寺西田町八十一  
法律・経済・思想  
一般書

電話(〇七五)七六一―四四五五四  
振替 京都 五一四二六二二

法律関係特集

1	裁判批判	家永三郎	昭34	二,000
2	法律提要 全二冊	江家義男監修	昭43	一,500
3	法と宗教の法則	田中耕太郎	昭2	一,500
4	随想と回想	滝川幸辰	昭24	二,000
5	随想家	中川善之助	昭18	二,000
6	法律と人間	末川博	昭23	二,500
7	制度・時・人	末川博	昭12	二,000
8	教養と文化の基礎	田中耕太郎	昭12	二,000
9	法憲漫筆	末弘巖太郎	昭8	二,000
10	日本の裁判	戒能通孝編	昭31	二,500
11	憲法の心	田中伊三次	昭34	二,000
12	法学的世界観	加藤新平	昭25	二,000
13	家族法講話	川島武宣他	昭25	二,000
14	小野塚喜平次 人と業績	南原繁他	昭9	五,000
15	六法全書 昭和九年	平凡社版	昭9	一,000
16	六法全書 昭和十六年	岩波書店	昭16	二,000
17	世界法の理論 第一巻	田中耕太郎	昭23	二,000
18	フイフット・イギリス法―その背景―	伊藤正己	昭28	一,000
19	ホグビン・ホリネンに於ける法と秩序	吉田次沢	昭17	二,500
20	法理学 上巻	小林直樹	昭35	二,000
21	アクイナス・法について	稲垣良典訳	昭33	七,000
22	パウンド・法律史観	高柳賢三訳	昭6	一五,000
23	ハルトマン・可能性と現実性見返し欠	高橋敬視訳	昭18	一三,000
24	法の究極に在るもの	尾高朝雄	昭37	一,000
25	国家構造論	尾高朝雄	昭17	二,000
26	法の変動	栗生武夫	昭24	四,000
27	法の基本問題	恒藤恭	昭11	四,000
28	哲学と法学	恒藤恭	昭44	四,000
29	自由と国家の理念	南原繁	昭35	三,000
30	法律哲学原理	三谷隆正	昭14	三,500
31	ルーマン・法社会学	村上淳一他訳	昭52	一八,000
32	法社会学の諸相法社会学 第11号	同学会編	昭36	三,000

33	法社会学の課題	戒能通孝他	昭27	二,500
34	法をめぐる闘争と法の生成	和田小次郎	昭28	七,000
35	法律に於ける階級闘争	平野義太郎	昭23	一,500
36	家庭事件における法社会学	湯沢雅彦	昭50	二,000
37	法社会学と法解釈学	渡辺洋三	昭37	二,000
38	村明細帳の研究	野村兼太郎	昭53	二五,000
39	ブランク・イギリス法制定 上巻	同研究会訳	昭34	三,000
40	マイネック・独逸国民国家発生の研究	矢田俊彦訳	昭18	二,000
41	国家と階級	高田保馬	昭9	二,000
42	マキヤヴェリ・君主論	羽田二郎	昭6	一,500
43	天皇の国家的象徴性	佐々木惣一	昭24	一五,000
44	ケルロイター・ナチストイ憲法論	矢野貞治他訳	昭14	七,000
45	プロイセン憲法争議研究	前田光生	昭55	六,000
46	ポルン・ハーク・憲法の系譜	山本清三訳	昭36	二,000
47	現代憲法の基本問題 有倉遼吉先生還暦記念	山本清三訳	昭49	一五,000
48	現代国家と憲法の原理 小林直樹先生還暦記念	山本清三訳	昭58	二,000
49	歴史のなかの憲法 全二冊	家永三郎	昭52	二,000
50	判例からみた日本国憲法の展開小松件進	佐々木惣一	昭41	二,000
51	改訂 憲法大義	佐々木惣一	昭28	三,000
52	帝国憲法講義	佐藤五次郎	昭17	一五,000
53	憲法調査会総批判 鈴木安藏教授還暦祝賀論文集	同研究会編	昭39	八,000
54	憲法学の基本問題	田畑忍	昭24	二,000
55	憲法論争―憲法重要問題の研究―	田畑忍	昭37	二,000
56	違憲・合憲の放理	田畑忍	昭30	七,000
57	日本国憲法	橋本公貞	昭55	三,000
58	憲法提要	美濃部達吉	昭9	三,000
59	公法と私法	田中二郎	昭30	一,000
60	憲法の基本問題 全二冊	渡辺安次郎	昭31	一,000
61	基本的人権の研究	鈴木安藏他	昭45	二,000
62	ゲルボン・基本的人権	早川武夫他訳	昭34	九,000
63	言論・出版の自由	伊藤正己	昭44	四,000
64	法曹会史	法曹会	昭44	三,000
65	国会と司法権の独立	京藤秀夫	昭26	一,000
66	司法権の限界	田中二郎	昭52	四,000
67	行政法の歴史的展開	鶴飼信成	昭51	三,500
68	日本行政法論 総論	佐々木惣一	昭11	九,000
69	公法上の特別権力関係の理論	園部敏	昭24	三,000
70	行政刑法概論	美濃部達吉	昭24	六,000
71	統治行為論	山田準次郎	昭41	三,000

72	地方行政をめぐる紛争解決の理論と実際 第二集	島田信次他	昭49	二,000
73	地方自治法論	高橋貞二	昭32	二,500
74	京都府警察史 第一、四 全四冊	同委員会編	昭55	五,000
75	租税転嫁(印有)	松野賢吾	昭18	二,000
76	租税法要論	忠 佐市	昭25	六,000
77	租税法の基礎理論	忠 佐市	昭25	六,000
78	土地法制概論	地政研究所編	昭23	二,000
79	工業所有権法逐条解説	特許庁編	昭46	二,000
80	ソビエト民法および労働法	胡麻本葛一	昭24	一,500
81	判例民法研究	末川博	昭12	四,000
82	入会権論	奈良正路	昭6	四,000
83	英契約法に於ける畏迫の研究	末留三良	昭23	四,000
84	英米契約法原理	谷口知平	昭12	六,500
85	判例不法行為体系	岩井万亀	昭11	三,000
86	不法行為論	宗宮信次	昭10	三,000
87	権利の濫用 全三冊	末川先生古稀記念	昭37	二五,000
88	不法原因給付と信義衡平則	中川毅	昭43	二,000
89	代物弁済予約の研究	椿 寿夫	昭51	七,000
90	イデオロギーとしての家族制度	川島武宣	昭34	二五,000
91	家族法体系 七冊	中川善之助教授還暦記念	昭35	八,000
92	判例身分法研究	青山道夫	昭18	三,000
93	相続法論 上巻	近藤英吉	昭12	二,000
94	日本親族法―昭和十七年―	中川善之助	昭18	二五,000
95	隠居論	穂積陳重	昭53	六,000
96	現代の遺言問題	太田武男編	昭54	二,000
97	不動産登記法正解	三宅徳業	昭45	二,000
98	新版 不動産登記法	杉之原舜一	昭45	二,000
99	保全処分の研究	吉川大二郎	昭12	二五,000
100	増補 仮処分の諸問題	吉川大二郎	昭44	一,000
101	不動産強制執行の諸問題	谷井辰蔵	昭11	八,000
102	財産権の強制執行	谷井辰蔵	昭9	三,000
103	改訂 あらゆる紛争とその調停	鬼頭木松他編	昭42	三,000
104	商法論叢	水口吉蔵	昭6	四,000
105	共同組合法の研究 増訂版	大塚喜一郎	昭43	六,500
106	株式会社法の理論	松田二郎	昭37	一,000
107	手形法・小切手法講座 全五冊	鈴木・大隅編	昭40	二五,000
108	保険学講義	佐波富平	昭26	一五,000
109	生命保険金融発展史	中山宏	昭41	二,000

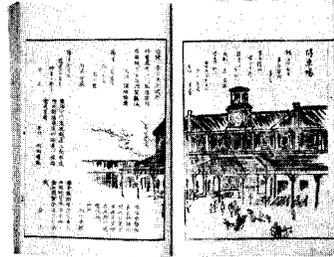
〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

# 大書堂

電話(〇七五)二二一〇六八五  
振替 京都 三三六八五



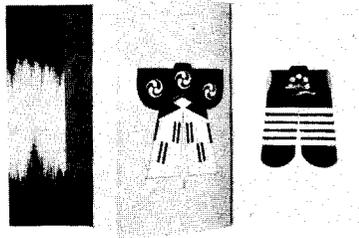
2 火の用慎花紅都嘶 京都天明大火控  
天明8年 全三冊 ¥38,000



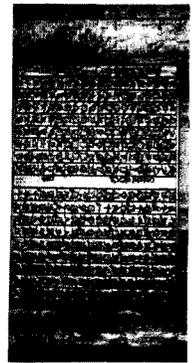
1 京都繁栄記(全) 増山守正編  
明治26年 ¥25,000



4 諸職画鑑 意齊北尾政美画  
寛政6年 ¥35,000



3 鳳皇窠 狂言衣裳紋様 木版彩色  
福岡玉俣 大正10年 全二冊 ¥50,000



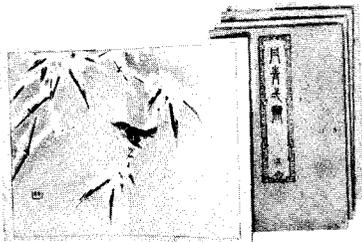
9 版木 帆足先生文集  
両面2帳分 ¥8,000  
嘉永元年刊



6 意斉略画式 人物編 寛政11年  
¥45,000



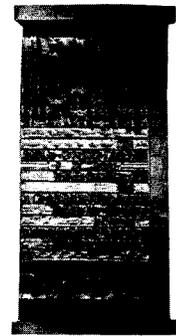
5 鳥獸略画式 意斉画 寛政9年  
¥38,000



8 丹青一斑 瀧和亭習画帳 初版本  
明治27年 全五冊 ¥45,000



7 龍之図 陳容画 鎌田巖松之写  
全28図・一袋 リプリント ¥9,500



10 版木 山陽詩註  
両面2帳分 ¥8,000  
嘉永六年刊

古書籍 東方書店

電話(〇七五)四九二二〇七一

千603 京都市北区小山下内河原町六三

1	神學校の生徒指導	文部省初等中等教育局編	昭24	六〇〇〇
2	会誌 創刊号	広島県立三原高女玉寿会	昭10	三〇〇〇
3	創立二十五年記念誌	広島県立高女玉寿会	昭10	四〇〇〇
4	会員名簿	京都府立一中同窓会	昭10	三〇〇〇
5	大阪商科大学一覽	同大学編	昭8	三〇〇〇
6	学事視察報告書	大津市役所	大10	六〇〇〇
7	新教育学	能勢 栄	明30	一五〇〇〇
8	日本社会の基本問題上	堀西四郎 検定済	昭27	七〇〇〇
9	民主主義	文部省	昭24	四〇〇〇
10	日教組教育情報	増刊号 日教組情報部	昭29	五〇〇〇
11	京都郷土誌	京都市尋常高小校長会	明35	四〇〇〇
12	清原栗田山先生記念誌	松岡久人編 孔版	昭30	八〇〇〇
13	我校及校下	京都市修道尋常小学校	大2	六〇〇〇
14	兵庫県立三中一覽	第九号	昭8	三〇〇〇
15	校友会会報	四八号 松山高校三光寮 長崎県立学校校友会	昭4	三〇〇〇
16	三光 第四号	松山高校三光寮	昭6	四〇〇〇
17	北隆館五十年を語る	福田良太郎	昭15	六〇〇〇
18	坂本嘉治馬白伝	坂本守正編	昭14	五〇〇〇
19	中等教科書協会有終終史		昭16	八〇〇〇
20	日彰百年誌	其編集委員会	昭46	四〇〇〇
21	京一中洛北高校百年史	其校史編集委員	昭47	九〇〇〇
22	神戸女学院創立五十年	其祝賀会	大14	二〇〇〇
23	神戸女学院百年史総説	神戸女学院	昭51	六〇〇〇
24	日本女子大学校四十年史	中村政雄編	昭17	八〇〇〇
25	京都府立医科大学百年史		昭49	八〇〇〇
26	副都立学校園植物	博物研究会	明45	五〇〇〇
27	綴方教育、雑誌教育特集号		昭11	二〇〇〇
28	学令期の教育、雑誌教育特集号		昭11	一五〇〇
29	エノホン、三教師用	文部省	昭16各六	〇〇〇〇
30	エノホン、上下	教師用 文部省	昭16	二〇〇〇
31	エノホン二	モンブシヤウ	昭16	二〇〇〇
32	尋常小字唱歌第三学年用	文部省	明45	三〇〇〇

33	民主主義	上・下 文部省	昭23・24	四、五〇〇
34	尋常小字図画五、六学年女児用	文部省	昭9・11各二	〇〇〇〇
35	初等科図画 四 女子用	文部省	昭18	三〇〇〇
36	初等科音楽一、二教師用	文部省	昭19	三〇〇〇
37	小字新定面帖六学年男児用	文部省	明43	二〇〇〇
38	製図教科書 上巻 製図教育研		昭15	二〇〇〇
39	女子実用図画三 美育振興会	検定済	昭10	二〇〇〇
40	女子図画1、2、4 美育振興会	検定済	昭5	二〇〇〇
41	師範学校図画教科書女子用巻二	阿部	大元	三〇〇〇
42	改訂新図画教科書女子用(白巻)	検定済	大13	二〇〇〇
43	初等科工作四女子用	文部省	昭18	二〇〇〇
44	初等科工作二男子用	文部省	昭18	二〇〇〇
45	木彫作程	木村五郎	昭8	八〇〇〇
46	ニューナショナルリダー、4	鍾美堂書店	明40各四	〇〇〇〇
47	最新映画教育の動向と実践	鈴木喜代松	昭9	七〇〇〇
48	最新映画教育の動向と実践	鈴木喜代松	昭9	七〇〇〇
49	尋常小字国史 上巻	文部省	昭9	二〇〇〇
50	尋常小字地理書卷一 児童用	文部省	大6	六〇〇〇
51	小学国史教師用書上、中、下	文部省	昭6	三〇〇〇
52	尋常小字地理書卷一 児童用	文部省	大14	二〇〇〇
53	高等小字地理用図	千葉胤矩	大2	三〇〇〇
54	学生用大阪地図		明27	一五〇〇〇
55	統合歴史地図 西洋	斎藤斐章他	明43	二〇〇〇
56	大日本地図	石野元蔵編	昭3	二、五〇〇
57	輓近小学校管理法	篠原助市他 検定済 長崎県立学校校友会	大12	四〇〇〇
58	小字国語読本卷十一	文部省	大12	二〇〇〇
59	高等小字修正算術書の研究		昭6	六、〇〇〇
60	小学日本歴史一六編 新保整次	孔版	明21	一五〇〇〇
61	小学日本歴史二	文部省著作	明38	三〇〇〇
62	高等小字修身書三学年用	文部省	昭7	二、〇〇〇
63	青年修身公民書本科五年制用	文部省	昭18	七〇〇〇
64	高等小字修身書新制三学年用	文部省	明43	三〇〇〇
65	中等小学二 文部省		昭7	三〇〇〇
66	小字算術書 六学年教師用	文部省	昭19	三〇〇〇
67	第一銀行五十年史	長谷井千代松	大15	二、五〇〇
68	差別撤廃問題	喜田貞吉	大13	五、〇〇〇
69	満洲と満鉄	平野 栄	昭15	四〇〇〇
70	満洲読本	東亜経済調査局	昭12	八〇〇〇

71	厚生省小史	武井群嗣	昭27	五、〇〇〇
72	社会局参拾年	厚生省社会局	昭25	二〇〇〇
73	滋賀県方面委員制度二十年	滋賀県	昭16	四、〇〇〇
74	社会福祉と民生委員	中央社会福祉協議会	昭26	六〇〇〇
75	隣保制座談	自治振興中央会	昭16	五〇〇〇
76	府県制と其の沿革	五十嵐鉦二郎編	昭14	三〇〇〇
77	兵庫県浮浪者の研究	兵庫県立社会福祉研究所	昭26	八〇〇〇
78	農村に於ける生活と貧困	厚生省社会局保護課	昭27	七、〇〇〇
79	滋賀県社会福祉事業要覧	滋賀県民生部	昭27	五、〇〇〇
80	京都合金属工業における労働事情	京都府労働部労政課	昭25	五、〇〇〇
81	京都陶磁産業者と労働事情	京都府労政課	昭25	五、〇〇〇
82	各党議員功罪帖 労働情報八号	日本労働通信社	昭23	五、〇〇〇
83	同和地区実態調査の総括篇	京都府社会教育課	昭23	五、〇〇〇
84	都市部落 その歴史と現状	部落問題研究所	昭15	七、〇〇〇
85	改訂上海港	三井物産(株)上海支店	昭15	五、〇〇〇
86	国学院大学百年小史	国学院大学編	昭15	四、〇〇〇
87	高松高等商業学校一覽		昭15	三、五〇〇
88	第七高等學校造士館一覽		大15	四、〇〇〇
89	小学日本歴史上、下巻	伊藤健編 検定済	明26	七、〇〇〇
90	良寛鑑賞読本	松本重雄 函付	昭14	六、〇〇〇
91	井伊大老の研究第一号	井伊大老史実研	昭25	三、〇〇〇
92	芥川龍之介集 初		昭2	八、〇〇〇
93	淀君 前編	三上於菟吉 初函美	昭4	一五、〇〇〇
94	夜来の花	芥川龍之介 初版	大10	一五、〇〇〇
95	海から来た使	小川未明 初版	昭21	二〇〇〇
96	舞姫の記	林美英子 初版	昭22	二〇〇〇
97	牧歌	堀 辰雄 初版	昭22	三〇〇〇
98	やがて五月に	岡本かの子 初版	昭21	二〇〇〇
99	お伽草紙	太宰治 初版	昭22	三〇〇〇
100	日本祭礼絵詞	荒井とみ子 初版カバ付	昭19	五、〇〇〇
101	地獄の門	松岡護著作集 第一編 初函	大11	八、〇〇〇
102	文学精神	創刊号 京都文芸懇話会編	昭25	一、五〇〇
103	東北文学	創刊号 河北新報社	昭21	二〇〇〇
104	小泉鏡花	寺木定芳 扉少シミ	昭18	二〇〇〇
105	俳諧修辭学	鶴沢四丁	昭8	六、〇〇〇
106	禪俳僧 虚白	高橋浩洲	昭16	八、〇〇〇
107	句集 花影	原 石鼎 初版 函	昭12	二〇〇〇

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

### 藤井文政堂

電話(〇七五)三五一―九三六三  
振替 大阪 七―三―一五一

1	駄賃錢之事文書	天保上、年譜長馬所印	一通	七、〇〇〇
2	頼母志講帳	南久太郎、東藤、西園橋等	一冊	五、〇〇〇
3	城州久世郡年久依館入免許狀	天明元年	一通	五、〇〇〇
4	享保十三門口宣案	大中和忠寛遺補造大神宮便	一通	五、〇〇〇
5	寛保三年門口宣案	大中臣知忠從五位下	一通	五、〇〇〇
6	元禄十五年門口宣案	大中臣知忠從五位下	一通	五、〇〇〇
7	宗旨手形之事文書	通稱、徳寺、貞享五年	一通	五、〇〇〇
8	宗旨村送り手形文書	南都南袋町大安寺村文政、天保五通	六、〇〇〇	
9	宗旨手形ノ事文書	玉造越中町、喜永	九通	二、〇〇〇
10	婚礼胸守婚礼五ヶ条大事	江戸期写	二卷	二、〇〇〇
11	圓戒國師和讃	江戸期写	長差	一、〇〇〇
12	東寺牛玉印	江戸期	一枚	五、〇〇〇
13	密灌頂道場知事文	西教寺密場穴太正流、明35写本	一冊	二、五〇〇
14	光明深秘供并施餓鬼法則	台密、広徳院、明9写	一冊	二、〇〇〇
15	勝林院本願忌法則	台密、弘化四写本	一冊	二、〇〇〇
16	小課誦	盛徳大師、西行、御合、合行法会手鑑、明治27年刊小冊	一冊	二、〇〇〇
17	真言宗五派聯合規及會議法名簿等	明治、十七年写本四冊	五、〇〇〇	
18	京都大藏會展觀日録	第14・15・17・19・22・23・25 各一冊	八、〇〇〇	
19	東京大藏會展觀日録	第18・20・21・29・30 各一冊	一、〇〇〇	
20	春秋左伝占話考	加藤大岳	A 5 昭42	二、五〇〇
21	觀相学綜合編	浦辺顕著	プリント版	三、〇〇〇
22	命理秘伝	高木乘自筆講述本	昭和十六年記	三、〇〇〇
23	数靈法運命鑑	宇佐美景堂	A 5 昭50	二、五〇〇
24	靈能者とその周辺	(日本心霊小史)	A 5 昭53	二、〇〇〇
25	靈界物語	出口王仁三郎、揃七十六冊	昭45	四、〇〇〇
26	鬼谷源流断易天機	正保版、虫喰本	揃六冊	六、五〇〇
27	方輿図解	松浦琴鶴	揃五冊	二、〇〇〇
28	日要精義大成	松浦琴鶴	二冊	二、〇〇〇
29	宿曜經	高野山經師八左衛門	二冊	四、五〇〇
30	紫微五術占卜篇	佐藤六龍	A 5 A 昭57	三、〇〇〇
31	紫微五術仙道篇	佐藤六龍	A 5 A 昭54	四、〇〇〇
32	紫微五術面掌篇	佐藤六龍	A 5 昭55	六、〇〇〇

〒606 京都市左京区一乗寺塚本町106の2  
白川ビル1F

### 文庫堂

電話(〇七五)七二二―四四四九  
振替 京都 二―四―二五七九



2 清方木版画 52×36浬  
虫喰有 ¥32,000



1 清方木版画・大正2年  
30×21浬・中折有  
額共 ¥35,000



5 吉田博木版画  
「姫路城」 38×26浬  
昭和3年 ¥52,000

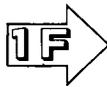


4 引札 48×37浬 河合如風画刻  
墨刷 明治期 ¥15,000



3 工芸 37号 泥絵特輯  
昭和12年 ¥18,000

# 新装オープンしました!!



## なにかが ちがう「古本や」

京都一の売場スペースでお待ちしています。



## ミニ・ギャラリー

各種展示会にご利用下さい。

〒602 京都市上京区河原町通今出川上る

株式会社 **善書堂**

TEL 231-7711・256-1735

〒606 京都市下京区七条通堀川角

### 谷 書店

電話(〇七五) 三六一七六九五  
振替 京都 二一一二七九

32	涅磐図 筆彩	35×56 一紙	江戸中期刊	〇〇〇〇〇〇
31	地蔵菩薩発心因縁十王経 絵入		江戸初期刊	〇〇〇〇〇〇
30	往生要集 中ノ下 室町時代刊	尾欠	七〇〇〇〇〇	
29	講座近代仏教	全6	昭38	〇〇〇〇〇〇
28	仏教説話研究	岩本 祐 印有	昭53	〇〇〇〇〇〇
27	法然とその門下の数学	龍大真宗学会編	昭47	五〇〇〇〇〇
26	法然門下の数学	安井広度	昭49	八五〇〇〇〇
25	城跡法然上人諸伝の研究	三田全信	昭41	九〇〇〇〇〇
24	法然上人伝の研究	田村円澄	昭47	六〇〇〇〇〇
23	浄土宗開創期の研究	香月乗香編	昭47	八〇〇〇〇〇
22	鎌倉浄土教成立の基礎研究	石田充之	昭41	八〇〇〇〇〇
21	弘法大師著作全集	勝又俊教編 全3	昭51	一〇〇〇〇〇〇
20	密教概説	長岡慶信	昭39	八五〇〇〇〇
19	チベット密教教理の研究	酒井真典	昭31	七五〇〇〇〇
18	大乘起信論講義	細川千蔵	明31	三〇〇〇〇〇
17	大乘起信論精義	武邑尚邦	昭34	七五〇〇〇〇
16	大乘起信論新釈	隈部慈明	大7	五〇〇〇〇〇
15	湯次了栄		昭14	九〇〇〇〇〇
14	山崎慶輝		昭39	五〇〇〇〇〇
13	浄土教の起原及発達	望月信享	昭47	一五〇〇〇〇
12	学海画夢	依田百川	二冊	一〇〇〇〇〇
11	終焉仿古画譜第一集	水原程屋編	四冊	八〇〇〇〇〇
10	南画指南	加納黄文編	四冊	八〇〇〇〇〇
9	南画初步	加納黄文編	四冊	八〇〇〇〇〇
8	朝鮮早引漫画 四		明14	二〇〇〇〇〇
7	紡奇画蹟 光緒版		明13	四〇〇〇〇〇
6	山水名跡画譜		明治	二〇〇〇〇〇
5	吾山画譜 秋		昭8	三〇〇〇〇〇
4	髣髴速成画法	松田霞城	四冊	七五〇〇〇〇
3	墨香画譜	彩刷 森榮石	小本三冊	六〇〇〇〇〇
2	書画類選	彩刷	嘉永五	六〇〇〇〇〇
1	毛筆画獨稽古	彩刷 桂恒秀	明治	三〇〇〇〇〇

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号

### 臨川書店 大阪店

電話(〇六) 三七四一三〇〇  
振替 京都 七七八〇〇番

営業時間 午前十一時～午後八時 定休日 毎週水曜日

32	句案の話		大7	一五〇〇〇〇
21	明眸行		大6	三〇〇〇〇〇
20	沢村田之助(函)		大14	七〇〇〇〇〇
29	文章道と漱石先生		大12	三〇〇〇〇〇
28	雪ふる道		昭11	五〇〇〇〇〇
27	絵日傘 三之巻(痛み本)		大8	三〇〇〇〇〇
26	鴨川情話 夢二装(痛み本)		大15	八〇〇〇〇〇
25	荷風文庫 初・函		昭16	四五〇〇〇〇
24	西の旅		昭13	一五〇〇〇〇
23	灰皿 初・美		昭11	六〇〇〇〇〇
22	思ひ出るまま		昭11	六〇〇〇〇〇
21	彼女と少年 函・初		昭9	六〇〇〇〇〇
20	雑炊		昭6	三〇〇〇〇〇
19	椿		大15	三〇〇〇〇〇
18	再び草乃野に(函欠)		大8	五〇〇〇〇〇
17	椿(現代小品叢書)		大2	二八〇〇〇〇
16	海をこえて		昭2	三〇〇〇〇〇
15	本音		昭11	四〇〇〇〇〇
14	金の鍵の匣 函・美		昭10	三〇〇〇〇〇
13	荆棘の冠		昭10	三〇〇〇〇〇
12	佐々木味津三集 近代日本ユウモア叢書		昭56	一八〇〇〇〇
11	落葉集	佐々木味津三遺文集	昭44	四八〇〇〇〇
10	風雲天満双紙	佐々木味津三	昭22	二八〇〇〇〇
9	二人の異端者	佐々木味津三	大13	二五〇〇〇〇
8	呪はしき生存	佐々木味津三	大8	三〇〇〇〇〇
7	落葉集	小宮豊隆	大12	三〇〇〇〇〇
6	わすれなぐさ(アルス版)		昭15	七五〇〇〇〇
5	若き日の小山内薫	岡田八千代	大7	五〇〇〇〇〇
4	芝居みたまま 木版装 小型本	井桁佐平	大6	二〇〇〇〇〇
3	八重葎		大7	二〇〇〇〇〇
2	新柳集	泉 鏡花	大11	六〇〇〇〇〇
1	日本橋	泉 鏡花	大7	五〇〇〇〇〇



〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入  
(京都大学前)

井上書店

電話(〇七五) 七八一三三五二  
振替 京都 七一二二四九七

1	印度支那の民族と文化	松本信広	昭17	五、〇〇〇
2	印度支那と日本との関係	金永健	昭18	五、〇〇〇
3	支那貨幣考	穂積文雄	昭19	六、〇〇〇
4	支那史研究	市村	昭18	一、八〇〇
5	ロオマと支那	テツガアト	昭19	四、〇〇〇
6	支那地方自治発達史	和田清	昭14	七、〇〇〇
7	近世支那経済史研究	小竹文夫	昭17	四、五〇〇
8	史記著作考	シヤヴァンヌ	昭14	一、五〇〇
9	北極開略	亀井高孝 島連太郎	昭3	五、〇〇〇
10	日本古代社会	西村眞次	昭3	二、〇〇〇
11	日本原始文化	三森定男	昭16	一、五〇〇
12	有史以前の跡を尋ねて	島井龍蔵	昭14	二、五〇〇
13	日本古代社会の葬制	齊藤忠一 高桐書院	昭22	一、〇〇〇
14	土佐国古城略史	宮地森成	昭20	二、五〇〇
15	史蹟切支丹屋敷研究	川村恒喜	昭5	三、〇〇〇
16	武蔵野及其周囲	鳥居龍蔵	昭13	二、〇〇〇
17	南方佛教の様態	龍山章眞	昭17	五、〇〇〇
18	希臘の宗教	松村武雄	昭23	一、〇〇〇
19	北方の画匠たち	ブルクハルト	昭24	二、〇〇〇
20	南方古代文化と芸術	川路 土橋	昭19	二、〇〇〇
21	アフリカ文化の研究	伊谷 米山	昭59	九、〇〇〇
22	近世日本国民史第一期50冊揃	明治書院	昭11	三、〇〇〇
23	日本思想史研究	村岡典嗣	昭50	九、〇〇〇
24	学習指導における文化財の手引	3冊 岩波	昭27	二、〇〇〇
25	文化財要覧	昭和30・31・35年	各	〇〇〇
26	湖東研究	陶磁器研究会編	大9	二、五〇〇
27	庭園研究十五題	龍居松之助	大12	一、〇〇〇
28	修正彫金家年表	桑原洋次郎	大12	二、〇〇〇
29	京都行脚	川勝 天沼	昭4	一、〇〇〇
30	千吉商店の歴史と経営	足立政男	昭32	二、〇〇〇
31	京洛小品	萩原井泉水 函小イタミ	昭4	二、〇〇〇
32	東京今昔帖	木村荘八	昭29	一、五〇〇
33	支那事変	戦跡の栞	昭14	二、〇〇〇

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町95

石川古本店

電話(〇七五) 七一一一五四二九  
振替 京都 七一一三〇八九

1	西藏征旅記	吉田一次	昭17	二、〇〇〇
2	比律賓紀行	仲原善徳	昭17	二、〇〇〇
3	アラビヤ紀行	中原英治郎	昭17	二、〇〇〇
4	イラン紀行	井上信明	昭16	二、〇〇〇
5	南洋紀行(ゴゴレ)	丸山義二	昭15	一、五〇〇
6	南方農業紀行	三木末武	昭19	四、五〇〇
7	蘭印植物紀行	山本由松	昭17	一、五〇〇
8	生物紀行(前編)	谷津直秀	昭18	二、〇〇〇
9	メラネシア探検	小池新二	昭18	三、〇〇〇
10	支那事変	戦跡の栞	昭14	三、〇〇〇
11	カラヴァン	水野亮	昭17	三、〇〇〇
12	行旅想心	里見岸雄	昭18	二、〇〇〇
13	南島巡航記	嘉治隆一	昭17	三、〇〇〇
14	西洋拝見	辻二郎	昭9	一、〇〇〇
15	西比利亜日記	榎本武揚	昭18	二、〇〇〇
16	ジャワの旋風	十河巖	昭18	一、五〇〇
17	新疆省から印度へ	齊藤大助	昭18	二、〇〇〇
18	食人俗を探る	戸鞠雅彦	昭18	二、〇〇〇
19	孤高の芸術家	藤井達吉翁	昭40	五、〇〇〇
20	ペーリング海	小葉田亮	昭18	一、〇〇〇
21	ソウエート芸術の展望	京都発明協会編	昭31	一、五〇〇
22	美と精神の秩序	尾瀬敬止	昭23	一、〇〇〇
23	歌人赤彦の鑑賞	中井駿二	昭23	一、〇〇〇
24	通俗蝶翅類図説	岡崎常太郎	昭17	三、〇〇〇
25	通俗蝶翅類図説	岡崎常太郎	昭17	一、五〇〇
26	通俗直翅類図説	岡崎常太郎	昭17	一、五〇〇
27	最近昆虫学	松村松年	昭11	二、〇〇〇
28	深流唱	警醒社	昭19	二、〇〇〇
29	宇宙建築と其居住者	北原白秋	昭19	二、〇〇〇
30	南天荘雜筆(改装)	井上通泰	昭5	六、〇〇〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一  
(仏光寺通西新道東入)

京極書店

電話(〇七五) 三一五一五六〇  
振替 京都 六一三三四八八

1	伝記特集	千五百円均一	大2	一、五〇〇
2	感応公と象山先生	植村郡教育会編	昭13	二、〇〇〇
3	貝原益軒	霞亭・碧瑠璃園	昭16	三、〇〇〇
4	白河樂翁公と徳川時代	三上 参次	昭17	四、〇〇〇
5	契沖の生涯	久松 潜一	昭17	四、〇〇〇
6	聖徳太子	高橋 米峰	昭17	四、〇〇〇
7	佐久良東雄	稲葉 圓成	昭18	四、〇〇〇
8	久坂玄瑞の精神	望月 茂	昭18	四、〇〇〇
9	頼山陽の母	和田 健爾	昭18	四、〇〇〇
10	頼山陽の母	梅颯夫人	昭18	四、〇〇〇
11	遺歐使	支倉常長	昭18	四、〇〇〇
12	大塩平八郎	吉留 路樹	昭46	四、〇〇〇
13	藤公餘影	沖 藻 会	明41	四、〇〇〇
14	山本覚馬伝	古谷 久綱	明44	四、〇〇〇
15	加藤司書伝(築前勤王党首領)	青山 霞村	昭3	四、〇〇〇
16	贈從四位飯田忠彦小伝	中野景雄	昭8	四、〇〇〇
17	葉隠の哲人	石田一鼎	昭10	四、〇〇〇
18	明智光秀	川上 清吉	昭17	四、〇〇〇
19	平将門論	坂本 康山	昭17	四、〇〇〇
20	落日後の平家	荒井 彦能	昭48	四、〇〇〇
21	楠公伝	伊藤 孝也	昭18	四、〇〇〇
22	実説太閤記	中村 孝也	昭18	四、〇〇〇
23	太閤記	尾池 宣郷	明45	四、〇〇〇
24	平田篤胤の哲学	伊藤 銀月	明45	四、〇〇〇
25	平田篤胤の国学	中野 正義	明42	四、〇〇〇
26	平田篤胤の背欠	田中 正剛	明42	四、〇〇〇
27	平田篤胤の古典精神	山田 孝雄	昭15	四、〇〇〇
28	平田篤胤の古典精神	藤田徳太郎	昭17	四、〇〇〇
29	山鹿素行全集	竹下 数馬	昭19	四、〇〇〇
30	本居宣長先生	島津 巖	昭14	四、〇〇〇
31	本居宣長	小倉 喜市	昭12	四、〇〇〇

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5  
 社会科学系と  
 外山書店  
 電話(〇七五)七〇一六六二七  
 振替 京都 九一六三八四

28	新音楽教育の研究	北村久雄	昭9	二,〇〇〇
27	コルユープンゲン	日本音楽協会	昭2	二,〇〇〇
26	現代仏蘭西音楽	小松耕輔	昭2	三,〇〇〇
25	西洋音楽十二講	前田三男	昭2	二,五〇〇
24	風琴・洋琴進行曲	納所弁次郎編	昭39	二,〇〇〇
23	伴奏の附け方	幾尾池尻	昭6	五,〇〇〇
22	理想の唱歌教材	佐々木さぐる	昭3	三,〇〇〇
21	唱歌法―正しく美しい唱歌の基礎―	沢崎定之	昭24	一,〇〇〇
20	音楽の鑑賞教育	山本寿	昭13	一,五〇〇
19	音楽教育の諸問題	青柳善吾	昭13	一,〇〇〇
18	楽典初歩	文部省	昭21	二,〇〇〇
17	ウエイドレー・芸術の運命	深瀬基寛訳	昭28	二,〇〇〇
16	華道と芸術	広瀬静岳	昭36	二,〇〇〇
15	児童劇の作り方と指導法	野村政夫	昭7	四,八〇〇
14	木彫の技法	木村五郎	昭7	五,〇〇〇
13	小学校に於ける手芸教材並びにその指導法の研究	斉田コト	昭14	五,〇〇〇
12	尋常科一・二学年クレイヨン画の新指導	黒田・上甲	昭3	八,〇〇〇
11	児童美術クレヨン染と版画	横井曹一	昭14	三,〇〇〇
10	新教科書挿画の解説及取扱法	田中広吉	昭2	八,〇〇〇
9	読本之部全2冊	田中広吉	昭2	八,〇〇〇
8	現代図画工作教育	高橋・川村	昭24	五,〇〇〇
7	図画教授資料 第一篇	白浜 徹	昭6	三,〇〇〇
6	図画の鑑賞教育	小塚・宇市	昭5	五,〇〇〇
5	ルナル日記 一八八七―一八九三	岸田国士訳	昭12	二,〇〇〇
4	美術教育の諸問題	松井清人	昭33	二,五〇〇
3	日本絵画三代志	石井 柏亭	昭17	一,五〇〇
2	現代視覚教育の理論	上野辰美他	昭43	三,五〇〇
1	聴覚教育の新研究	小泉 洽	昭18	五,〇〇〇

29	アウエル・ヴァイオリン奏法	荒川金之訳	大11	三,〇〇〇
30	マンドリン・ギター及其オーケストラ	武井 守成	大13	五,〇〇〇
31	デイスク年鑑 一九三四年版	青木 誠意	昭26	一,〇〇〇
32	音楽美学講話	野村 良雄	昭16	二,〇〇〇
33	芸能科音楽指導法教本(79P)	工藤富次郎	昭25	二,〇〇〇
34	フックス・古典対位法	坂本良隆訳	昭26	二,〇〇〇
35	グラシマ・ピアノ奏法	小松 清訳	昭16	二,〇〇〇
36	西洋音楽物語	大田黒元雄	昭27	二,〇〇〇
37	ヤダズゾーン・カノンとフーガ	戸田邦雄訳	昭23	三,〇〇〇
38	クロイツァー・裝飾音	中瀬古和訳	昭31	二,〇〇〇
39	音楽史序説	諸井 二郎	昭24	一,〇〇〇
40	音楽の精神	谷口・河野訳	昭7	三,〇〇〇
41	ダンディ・セザール・フランク	伊庭 孝	昭12	三,〇〇〇
42	音楽読本	桂 近乎	昭26	三,〇〇〇
43	音楽の一般知識	下総 皖一	昭10	七,〇〇〇
44	和声学	園部三郎他	昭23	一,五〇〇
45	現代音楽論	塚谷 晃弘	昭28	二,〇〇〇
46	現代音楽の思潮	小泉 洽	昭23	一,八〇〇
47	現代音楽の主潮	園部 三郎	昭23	一,〇〇〇
48	民衆音楽論	服部龍太郎	昭30	一,〇〇〇
49	室内音楽全書	服部龍太郎	昭30	一,〇〇〇
50	最近科学上より見たる音楽の原理	田辺 尚雄	大10	八,五〇〇
51	テトラツイーニ・声楽を志す人々へ	小松平五郎訳	昭7	五,〇〇〇
52	家庭音楽講話	田辺 尚雄	大11	三,〇〇〇
53	ヴァイオリン・ピアノ・オーガンの解説	渡辺 弥蔵	大10	三,五〇〇
54	ブロウワァー・ピアノの弾き方	服部龍太郎訳	大14	四,五〇〇
55	上達のためのピアノ奏法の段階	井口 基成	昭30	二,五〇〇

56	カラス・管絃楽及管絃楽法の歴史的研究 (改訂版)	大田黒元雄訳	昭7	一五,〇〇〇
57	ランドルミイ・西洋音楽全史	服部龍太郎訳	大15	三,八〇〇
58	シユテール・音楽形式学	属 啓成訳	昭29	五,〇〇〇
59	フィルケンシユタイン・音楽はどう思想を表現するか(音楽の社会的基礎)	田村一郎訳	昭28	一,〇〇〇
60	音楽史の断章	園部 三郎	昭23	一,五〇〇
61	西洋音楽史 上・下	門馬 永衛	昭11	六,〇〇〇
62	西洋音楽史 I	湯浅 年術	昭12	一,〇〇〇
63	音楽文化史 I	野村 良雄	昭25	二,〇〇〇
64	西洋音楽の知識	小松 耕輔	大12	二,〇〇〇
65	楽聖遺跡紀行	属 啓成	昭25	一,八〇〇
66	楽聖物語	野村 長一	昭18	一,〇〇〇
67	大作曲家物語	大田黒元雄	昭24	一,〇〇〇
68	シユウバイツァー・パツハ	辻・山根訳	昭39	一五,〇〇〇
69	シユヴァイツァー・パツハの芸術	津川主一訳	昭18	二,〇〇〇
70	解説ベートーヴァン全集 第1―5巻	属 啓成	昭29	二,八〇〇
71	ベートーヴァン・一生と作品研究	柿沼太郎訳	大13	五,〇〇〇
72	ベツカア・ペエトヴァン	大田黒元雄訳	昭8	四,〇〇〇
73	ワインガルトネル・ベートーヴェン以後の音楽	馬場二郎訳	大15	四,五〇〇
74	シユーベルト―生活と作品―	庄一	昭25	一,〇〇〇
75	シヨパン	長谷川千秋	昭18	一,〇〇〇
76	リスト・シヨパンの芸術と生涯	藤沢忠枝訳	昭18	二,〇〇〇
77	名曲解説IⅢ(2冊)	柿沼太郎	昭28	五,〇〇〇
78	オヌマロフ・世界の名曲を面白く聴けるレコード音楽の解説 第1輯	大沼竹太郎	大13	二,八〇〇

〒604 京都市中京区新鳥丸通竹屋町上ル  
文 藻 堂

電話(0)五二二二一一九一四  
振替 京都 八八六一五

5

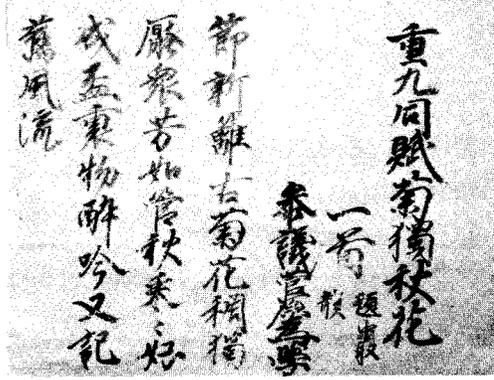
冷泉為頼 三首詠草(未表装) 46×32種  
根偽恋 為頼上 添削書入  
虫損一字欠 四五〇〇〇円

6

林道春 詩歌連書幅 絹装本紙45×34種  
「観海楼即席」道春一筆  
杉箱入 六五〇〇〇円

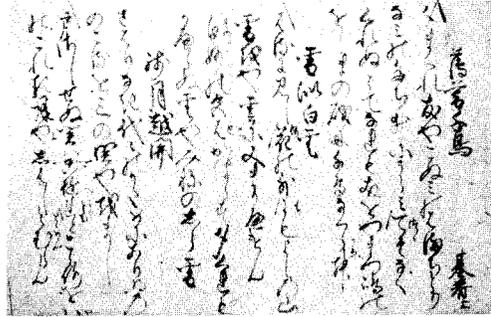
1

五条為字 詩懷紙(未表装) 41.5×32.5種  
題中取韻 參議菅原為字(少傷) 八五〇〇〇円



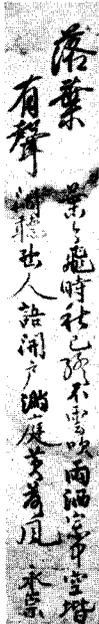
2

持明院基春 六首詠草(未表装)  
「添削」ニヨル書入し有 39×26種  
題 薄暮千鳥 他 基春上 二八〇〇〇円



3

相国寺永崇 七絶詩短冊 題字別筆 永正五年没 二〇〇〇〇円



4

柳原實定 短冊 岩戸明しひかりかはらでしのめ  
そらくもらぬ月よみの宿 一五〇〇〇円



7

姉小路公景 短冊 御秘せしみたらし川の夕波の  
立掃るそでに秋ぞおぼゆる 二二〇〇〇円



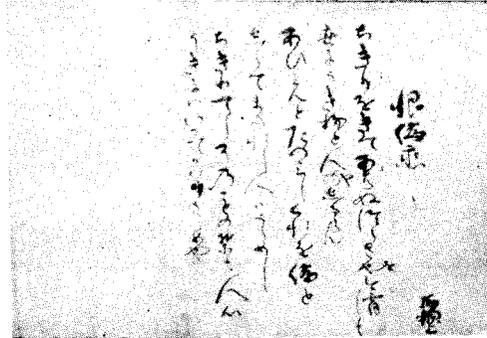
8

勤修寺經広 短冊 しら波のあちよとみえて住の江の  
なにおふかけや秋の夜の月 二二〇〇〇円



10 9

風早実種 短冊 題 松藤  
葉室頼熙 短冊 題 雲外雁 二二〇〇〇円  
七〇〇〇〇円



目でみる

# 昭和の大相撲



景山相撲資料館  
景山忠弘編

玉錦・双葉山の活躍した戦前から拍鵬の全盛時代までを、写真・記事・懐かしの玩具等で年代順に構成した愛蔵版。歴代横綱の手形(実物大)つき。  
●戦前編／四八〇〇円  
●戦後編／四八〇〇円

## 目で見る大正時代

国書刊行会編  
全3巻・各四八〇〇円

## 流行歌と昭和時代

遠藤憲昭編  
全2巻・各四八〇〇円

## 映画でみる戦後の時代

遠藤憲昭編  
全2巻・各四八〇〇円

## 目でみる江戸時代

新編 江戸風俗図絵集  
全2巻●各七五〇〇円

## 目でみる江戸をどり百番

江戸世渡風俗図会  
全2巻●各四五〇〇円

## 目でみる江戸職人百姿

目でみる江戸の遊廓  
全2巻●各七五〇〇円

\*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170東京都豊島区巢鴨3-5-18電話03(917)8287

## 名物六帖 (限定本)

伊藤東涯著

B5上製箱入 六五〇頁 定価 一一、〇〇〇円

「名物六帖」は刊本として出版されたもの以外に、東涯の自筆稿本のみしか存在しない部分があり、従来これを全て揃えることは非常に困難であった。本書は天理図書館古義堂文庫(伊藤東涯)の協力を得て、刊本・写本・自筆稿本全てを集めて、冊にした完本である。名物とは、中国の術語に日本の読みを与えて出典を明らかにし、六部門に分けた辞書である。中国文学、国史国文各分野の研究に必要な書。

## 義疏六帖 (限定本)

〔宋〕 義疏撰

B5上製箱入 五四二頁 定価 一〇、〇〇〇円

「義疏六帖」二十四巻は五代末初の高僧義疏の撰。唐の白楽天の「白氏六帖」に倣って、五千巻余の仏典より類を以て釈義し、凡そ五十四部四百四十一門とし、名付けて「義疏六帖」とした仏教語の百科辞書である。中国では原刊本は佚して伝らず、僅かに日本・京都の東福寺に、本蔵するのみで海内の孤本となっている。日本では江戸時代の寛文九年(一六六九年)飯田忠兵衛が宋版に基いて翻刻刊行をし和訓も附した寛文九年刊刻初印本を底本とした。

## 大唐大慈恩寺三蔵法師伝及考異・索引

宇都宮清吉校訂 B5判箱入(限定本) 定価 一〇、〇〇〇円

「大唐西域記」の著者として有名な唐・玄奘の伝記である。本書は、京都大学人文科学研究所(前東方文化学院京都研究所)の第一号研究報告の復刊である。三蔵法師伝は写本、刊本等多数あり、これらの異同を高麗本を底本として校訂したものである。高麗本影印一冊、考異と索引一冊で構成されている。仏教史・西域史等の必須文献である。

## 中国文学思想管見

橋本循著

A4判上製箱入五三四頁 定価 九、五〇〇円

## 詩経研究

通論論篇 白川静著

A4判上製箱入六六五頁 定価 一一、〇〇〇円

## 朋友書店

〒六六 京都市左京区吉田神楽岡町八  
電話(〇七五)七六二一 二八五

第一巻好評発売中

# 萬象録

高橋箒庵日記 全九巻

大濱徹也・熊倉功夫・筒井絏一校訂  
本書は、『大正名器鑑』、『大正茶道記』を遺した、近代茶道鼓吹の第一人者、高橋箒庵(義雄)の明治45年5月〜大正10年6月までの政治・経済・文化・美術・芸能その他の多岐にわたる話柄を満載した一大メモワールです。最終巻に索引と解説を付す。  
・A5判・平均三三〇〜五〇〇頁／平均定価七、五〇〇円

# 日蘭交渉史の研究

金井 圓著  
三浦按針を乗せたりフデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社の解散・外国船打払い令を経て、開国に至る二世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考一三篇に、通史・史料を添える。  
最新刊！  
・A5判・五〇〇頁／定価七、八〇〇円

既刊  
中世民衆生活史の研究 三浦圭一著 六、八〇〇円  
対外関係と文化交流 田中健夫著 九、八〇〇円  
京都中世都市史研究 高橋康夫著 七、八〇〇円

# 大燈国師語録

平野宗浄著

最新刊

# 禅宗文化史の研究

桜井景雄著

大燈国師六百五十年遠諱を記念して影印本と訓注本の二冊として刊行。影印には大徳寺蔵の五山版を用いた。大徳寺語録・祐徳禪寺に在する語・崇徳寺語録・後大徳寺語録・頌古・拈古・参詳語要・行状を取り、訓注を通して大燈の個性・家風がうかがえる。解題・略年譜・固有名詞索引も併載。  
・A5判・総一〇〇〇頁／定価一八、〇〇〇円(全二冊)  
南禅寺塔頭正因庵の住職として『南禅寺史』、『南禅寺文書』などを手がけてきた著者による南禅寺史や五山問題などの貴重な論稿二千篇を寺史・制度・人物・文化の四篇に分けて収録。自歴譜と人名・事項索引を付す。  
・A5判・四二〇頁／定価八、五〇〇円  
玉村竹二著 好評発売中！  
五山禅林宗派圖  
〔内容目次〕解題と凡例／宗派綱要(諸源)―中国伝法／五山禅林宗派図(八十一項目)関山派証系譜／道号検索／法諱(下字)検索／道号／法諱異称対照表  
・B5判・四二〇頁／定価一五、〇〇〇円

思文閣出版

京都本社  
東京支社

〒606 京都市左京区田中関田町2-7  
〒101 東京都千代田区三崎町2-20

(075)751-1781  
(03)263-6348

[呈内容見本]

# 近江人物志

滋賀県教育会編  
大正6年刊の復刻

●近江の人物と歴史を満載、甦る近江の先人たちの姿 ▼10月刊

畿内と東日本の窓口に当たる近江は、古来、人や文物の往来盛んに、歴史の動向を敏感に反映してきた。この地域性ゆえ、多くの名将や名僧・文化人また近江商人といった多岐にわたる人材を輩出している。本書はこれら一千余名の人物を採録、近江の先人達の辿った道をふりかえる興味深い一書。  
A5判・総一〇四二頁・写真34枚 定価九、八〇〇円

# 犬上郡誌・高宮町史

全国から参拝者を集める多賀大社はじめ由緒深い寺社を多く擁し、古い歴史を誇る犬上郡、中仙道と盛衰を共に歩んだ高宮町。共に郷土を語るに忘れべからざる書を受録。  
A5判・総二二八頁 定価四、三〇〇円  
〈犬上郡誌〉渡辺弘人編 明治14年刊  
〈高宮町史〉高宮町史編纂委員会編 昭和33年刊の復刻

# 近江日野町志

日野町志編纂委員会編  
昭和5年刊の復刻

戦国期の雄 蒲生氏郷や、流通経済の立役者、日野商人の事跡を追う好資料  
菊判・総二六〇四頁・折込付図16枚 定価三七、〇〇〇円

# 縮刷版 東洋歴史大辞典 全三巻

池内宏・橋本増吉・濱田耕作・矢野仁一監修  
収録項目二万余。特に人名、地名は今日既刊の類書に収録されていない項目が豊富かつ精密。本書なくしてアジアの歴史・地理・文芸を知ることはできない。昭和14年平凡社刊の九巻本を三冊に新装縮刷して復刊する待望の書。  
A5判・本文三段組四五四頁・索引三三二頁  
全三巻セット 定価四八、〇〇〇円

11月新刊

# 縮刷版 神道大辞典

宮地直一 監修  
佐伯有義  
●好評発売中  
神道に関するあらゆる事項を網羅。定評ある大書を縮刷版に  
A5判・一四七四頁・図版一〇一枚 定価一四、〇〇〇円

臨川書店

TEL (075)721-7111  
TEL (03) 293-5021  
TEL (06) 374-1300

〒606 京都市左京区今出川通川端東入50M  
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16  
〒530 大阪市北区芝田1-6-2阪急古書のまち